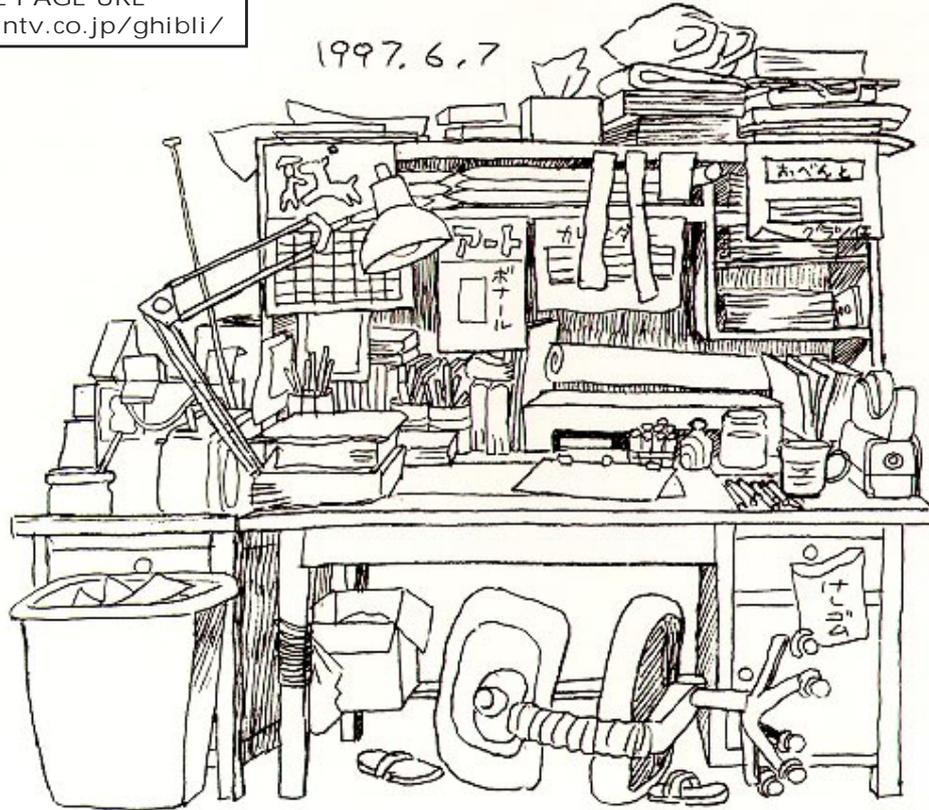


「もののけ姫」 制作日誌

日本アニメ至上空前の製作費22億円をかけ、スタジオジブリ始まって以来の2年の歳月をかけた「もののけ姫」は如何につくられたか。その制作日誌から抜粋で送る制作秘話。書き手はジブリ制作デスク、泣きと怒りの田中千義札幌出身・独身(33)。クラシックおたく。

GHIBLI HOME PAGE URL
<http://www.ntv.co.jp/ghibli/>



[画 / 近藤喜文]

95.6.22 (木)
タタリ神の処理をCGと手描きの2種類のテストを平行して行うことになる。

95.6.28 (水)
色指定の保田道世さんIN。ジブリの絵の具が国内の絵の具会社、スタック、太陽の二社だけでは賄いきれなくなっている。「もののけ姫」用の絵の具の一部としてカナダのクロマカラー社製のものを使えるか、サンプルを発注。

95.7.01 (土)
社内全スタッフを集めて「もののけ姫」の作品説明会。

「耳をすませば」の後始末やりハビリで参加が遅れていた美術・黒田氏IN。

95.7.10 (月)
絵コンテ134CUT分(11分30秒)完成。初の作画打合せが行われ、原画14人で作画IN。ついでにCG打合せが行われ、134CUT中11CUTが何らかの形でCGが絡むカットになる。

95.7.11 (火)
「On Your Mark」で参加が遅れていた美術・武重洋二氏IN。これで空前絶後の美術5人体制となる。

95.7.14 (金)
タタリ神の35mmテストラッシュを上映。テストとは言え、初ラッシュとなる。

95.7.17 (月)
宮崎監督の「もっと美術に近い特殊効果マンが欲しい」との要望をうけ、94年度入社の福留嘉一君を特殊美術に任命。ジブリ作品の特殊効果を担当している谷藤薫氏について勉強を開始する。

95.7.22 (土)
フランス人のデイビッド・エンチナス氏(23歳)が来社し、ジブリのテストを受ける。就労ビザが取ればジブリで働くこととなる。

第22回企画検討会「クイ」開催。原作・レポーターは出版部野崎氏。

95年8月
1カ月夏休み
95.9.01 (金)
絵コンテ178CUT分追加、計352CUT30分19秒となる。CUT336でAパート終了とする。
CG部に「On Your Mark」のCGを担当した、元リンクスの片瀬満則氏が



井上ひさし氏
(イラスト片山雅博)

1994

94年8月
宮崎監督、一人で準備に入る。ストーリー・ライン、イメージ・ボードの作成。

1995

95.4.03 (月)
安藤雅司氏、宮崎監督のイメージボードを基にキャラクター設定を開始。

95.4.19 (水)
宮崎監督による「もののけ姫」企画書完成。

95.5.02 (火)
絵コンテスタート。今回は特注のB・4横サイズ、1ページに3コマの特大絵コンテ用紙を使用する(通常はB-4タテ1ページに5コマ)。

95.5.14 (日)
屋久島へ5泊6日の予定でロケハンに出発。参加者は、宮崎監督、安藤作画監督、山本二三、田中直哉、武重洋二の美術トリオ、背景の田中恭子、太田清美、春日井直美、伊奈涼子、平原さやか、福留嘉一、作画の篠原征子、館野仁美、CG部百瀬義行、菅野嘉則、制作部田中千義の総勢16名。

95.5.22 (月)
ジブリ社屋の2階北の面に「もののけ姫」メインスタッフルームを設置。全作画スタッフをバーに集めて作品説明会を行う。

95.5.30 (火)
井上ひさしさんの講演会をジブリ社内のバーにて開催。

95.6.01 (木)
CG部開設。日本テレビ編成局美術開発部の菅野嘉則氏が2年間の予定でジブリに転出。また、アニメーターの百瀬義行氏がデザイナーとして参加。

95.6.10 (土)
冒頭部分、主人公アジタカの住む隠れ里、今という東北地方の美術を牛鹿和雄氏が担当することになる。

95.6.15 (木)
冒頭に登場するもののけ、タタリ神を全てCGにする為の打合せ。直ぐにテスト開始。

96.2.24 (土)

ディダラボッチと光虫のテストラッシュを行う。ディダラボッチは身体の模様の色等を変更、光虫は有富君のマジック版の失敗（セルの穴を埋めきれずに少し光が漏れた状態）のものを本番で使用することに。（技術解説参照）フランスから「宮崎監督は神だ」と言うおたく旅行者が、秋葉原で住所を聞いたとあって突然来社。社内の写真を撮りまくっていった。困ったものだ。（注：ジブリでは見学は受け付けていません）18カットの撮影入れ。近日中に二回目のラッシュを行う予定。

96.2.27 (火)

今までのトレスマシンでは不可能とされていた、横掛け上部の絵を簡単に写す方法をキャリアーを改造することで実現。ジブリのマシン史上最大の発見である。

96.2.29 (木)

第四回「映像の世紀」を観る会が開催される。出席者は減る一方。

96.3.04 (月)

宮崎監督が「当分原画チェックはしない。絵コンテに専念だ！」と宣言。外注スタジオの仕上げ上がりで、横がけキャリアーでトレスマシンをかけたため、フレーム上部の線が出ていないものが多いので、現在社内で大活躍中の革命的な新型横がけキャリアーを外注スタジオに配ることになり、村尾さんに発注。

96.3.05 (火)

宮崎監督が、ほとんど出来ていた、新しい部分の絵コンテ約5分（戦闘シーン）を破棄し、描きなおす。

96.3.06 (水)

宮崎監督から、CG部の作業で、一カットが完成する間に何度かそのカットをチェックしたいとの提案があり、片渥さんによれば、カットごとに進行の仕方が違うということなので、それぞれのカットについて個別に進行表を作り、チェックする方法を取ることに。

96.3.07 (木)

動きの先詰め後詰めについて、各列ごとにQAR（クイック・アクション・レコーダー）の前に集まり宮崎監督の講義を聴く。社内に意外と後詰めをしよう人が多いが、本来は先詰めが基本である（後詰めはロボットアニメの弊害）

第5回「映像の世紀」を観る会が行われる。今回は21日のプロデューサー来社を前に、彼の要望である第10回に放送された民族問題を観る。

96.3.08 (金)

ディダラボッチのテストラッシュが行われる。本番には、前回のラッシュにはなかった身体が青く光るタイプのディダラボッチを使用することに。

96.3.13 (水)

宮崎監督が、CG部が取り組んでいるタタリ神のカットのうち、まだ上がっていないものを、手描きにすると宣言。またデジタル用に動画を進めていたカットについては、そのままデジタル彩色を行うことにする。

96.3.21 (木)

「映像の世紀」のプロデューサー河本哲也氏を迎えて、番組の制作意図等様々なお話を聞く。出席者多数。

96.3.23 (土)

ポスター第一弾のセル画が完成、背景と合わせながら宮崎監督、保田さん、鈴木プロデューサーらが打合せ。雨セルのテストラッシュが上がる。いつもより雨が見えないようだ。撮影の問題なのか、雨セルの問題なのか。もう一度テスト。

96.3.28 (木)

6時過ぎから会議室において、美術監督が5人集まり今後の背景作業の話し合いを行う。まず今のペースで作業を続けてスケジュール内に終わらせるためには、背景の人数を増やさないが、今の部屋のスペースでは、2、3人入っただけで一杯になってしまう。田中直哉氏と山本二三氏の手伝いの人もできるがぎり社内で作業してもらいたいため、最低二つの机がほしいのとのこと。その解決策として3階の美術から2階に2つ机をもってくるという案が出され、一考することに。

96.4.01 (月)

朝10時半より入社式が行われる。徳間康快社長、山下辰巳社長も出席する。制作のアルバイトの東大生S君は、出勤時間を1時間間違え11時に入社。大物か。

テレコム竹内氏来社。田中敦子氏は5月1日からジブリに向向。一応6カ月間10月末日までの予定。ただし、同席した宮崎監督は「延びるよ」と一言。ディダラボッチの35ミリテストラッシュが行われる。デジタル合成用のテストラッシュは、奥井さんがイマジカで見取りテークを出したため延期。

96.4.03 (水)

セル穴の問題は機械の刃を取り換えることで解決。宮崎監督が「たまには安藤にまともな食べ物をお食べせよう」ということで、メインスタッフ8人を食事に連れっていく。

96.4.04 (木)

「人間は何を食べてきたか・ニジェル川の移動漁民」を観る会が行われる。事前に宮崎監督が強制的とも思える参加お願いポスターを貼った為、新人を含め20人以上の参加者があった。

96.4.06 (土)

バーにて新人歓迎会が行われる。ガイナックスの庵野氏も飛び入り参加。

96.4.12 (金)

最近鈴木プロデューサーがやけに機嫌がいいと思ったら、いつのまにか中日が首位に立っている。ちなみに鈴木さんは、開幕日には「俺はドジャースにしか興味はない」と語っていた。

96.4.13 (土)

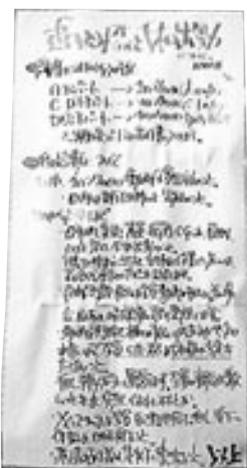
ラッシュチェックが行われる。リテーク多数あり。ブエナ・ビスタに渡す絵コンテのコピーを例のS君にとらせていたら「コピーばかりでもうやってられません。もうやめます」と帰っていった。あきればかりの忍耐力の無さである。さすがの私も呆れてしまった。



絵コンテAパートラストのいたずらがきより



ユーリ・ノルシュテイン氏 (イラスト片山雅博)



ジブリの入口に貼られた「急告」

加わり、計3名となる。

95.9.02 (土)

宮崎監督が腎臓結石の為、救急車で病院に運ばれる。しかしその日のうちに仕事へ復帰。

95.9.27 (水)

演助の伊藤裕之氏が東京多摩動物公園・蝶館で蝶の群集シーンのロケハンを行う。

95.10.02 (月)

既に加っていたBパート冒頭の絵コンテを改訂し、それを含めて絵コンテ51CUT分追加、計391CUTとなる。

「耳をすませば」のりハビリも兼ね、原画として近藤喜文氏 I.N.

95.10.25 (水)

年末ジブリフォーラム3連発の第一弾として、ロシアのアニメーション作家ユーリ・ノルシュテイン氏がジブリを訪れ、講演会を行う。また、最初の監督作品「25日最初の日」や日本では見られないCM作品などの上映も行われる。

95.10.29 (日)

ジブリ社員総勢約75人の大部隊が、2泊3日の社員旅行に、奈良へ出発。昨年とまったく同じ目的地、同じ宿。ただし宮崎監督、安藤作画監督は不参加。

95.11.07 (火)

タタリ神の最終テストラッシュが行われ、タタリ神のセルと特効処理が決定する。

95.11.09 (木)

若手原画マンのあまりの手の遅さに業を煮やした宮崎監督が、彼らを会議室に集め喝を入れる。

95.11.30 (木)

久石譲氏来社。宮崎監督から、「もののけ姫」の内容を詳しく聞く。

95.12.08 (金)

以前から宮崎監督と面識があった「トイ・ストーリー」の監督ジョン・ラセター氏来社。かなりの宮崎オタクの様だ。本人の希望により「となりのトトロ」の絵コンテコピーをアメリカに郵送することに。

95.12.14 (木)

第24回企画検討会「魔女集会通り26番地」が行われる。

95.12.15 (金)

若手原画約2名の、あまりの作業の遅さに、遂に宮崎監督が切れる。手持ちの終わった一人は、罰として複雑怪奇なタタリ神の動画を描くことに。

95.12.29 (金)

仕事納めと忘年会。毎年恒例のオリジナル年末ビデオは、忘年会終了直前に完成し、上映が行われる。

1996

96.1.06 (土)

いずれ作画監督の補佐として原画マンの中から一人を起用しなければならぬため、外の原画マンに声をかけまくるも、ことごとく断られる。宮崎監督の恐ろしさや、ジブリの管理の厳しさが業界では伝説となっているらしい（ホントはそんなことはない）

年末に日本テレビで「となりのトトロ」を放映した時に流した「もののけ姫」TV用第一弾スポットを見て、しばらく休職していた二本真希さんが、原画を描きたいと連絡してきた。3月1日より参加決定。

96.1.11 (木)

「若者達は20世紀の歴史を知らな過ぎる」との宮崎監督の一言で第一回「映像の世紀」を観る会が開催される。

96.1.16 (火)

CUT166.168兼用カットの背景動画を、試しにCGで作ってみることに。CG部片渥氏が、2時間程で簡単な動きの画面を作り上げた。それを見た宮崎監督、アニメーターを入れ代わりたばかりで連れてきては「どうだ面白いだろう！CG部の夜明けだ」と大興奮。今まで宮崎監督に「遅い」だの「役に立たない」などと言われていたCG部もホッと安心。

96.1.17 (水)

デジタルペイントのテストラッシュ完成。手仕上げのものと混ぜてスタッフの前で上映するも、誰も区別がつかず。

96.2.02 (金)

宮崎監督の意向を受け、夜のシンシンの身体（ディダラボッチと呼ぶ）に、CGで流れる星を追加するテストを開始。

来週からの撮影開始を前に、演助・伊藤氏が撮出しを開始。

96.2.07 (水)

絵コンテCUT680A～771まで92CUT分完成。総枚数は64分20秒。本日よりいよいよ本編の撮影開始。

96.2.10 (土)

初のラッシュチェック（25CUT）が行われる。

96.2.15 (木)

高畑監督も参加して、話題のオールCGアニメ「トイ・ストーリー」の社内上映会がジブリのバーで行われる。スタッフの評判は上々。高畑監督も大満足の様子。因みに宮崎監督は「いそがしい」と不参加。

96.2.20 (火)

タタリ神の猪が腐る前のCUTを、普通の仕上げ処理からデジタル仕上げに変更するため、動画を描き直さなくてはならなくなった。これは、普通に使われている色鉛筆では、スキャナーに反応してしまい、影線まで拾ってしまうためである。動画チェックに説明するが、当然のごとく大激怒。動画前にアナログ・デジタルの判断を確実に付けておかねばならない。

96.2.21 (水)

初のデジタルペイント CUTがCG部に。CUTの流れは、色指定終了後、制作のチェックを通しCG部に渡すこととする。デジタルペイント用のシリコングラフィックス製のコンピューターを、仕上げに置かず、CG部に置くか、菅野さんと保田さんが打ち合わせ。

で、宮崎監督によれば「下流のヘドロを相手にせず、ヘドロを浄化する一本の葎たらん。好み、遊び、教養、全てに亘り孤立をあれず、哄笑と透明なニヒリズムと知性の総合誌」とのこと。これだけでは何の雑誌か皆目見当もつかないが、ようするに現代の軽薄な流行に乗らずに「これがよいのだ」というある意味での哲学を紹介する雑誌なのである。

96.6.01 (土)

絵コンテCUT999~1,033まで35CUTアップ。計1,039CUT88分34秒7.92コマ。ラッシュチェックが行われる。リテーク8CUT。

96.6.11 (火)

コンピューターで百瀬さんが作っていた、矢がタタリ神の目に刺さるCUTがついに完成。早速宮崎監督が作画スタッフに号令をかけ、CG部で発表会がおこなわれる。もちろん「見たあとに拍手を忘れるな」とのアドバイスつき。

96.6.13 (木)

恒例となりつつある夜食会が開かれる。今日は動画チェック館野さんが作った水餃子。

96.6.18 (火)

知り合いの某雑誌編集者から「まんだらけ」のカタログが送られてくる。宮崎駿特集と銘打ったそのカタログには、ラピュタを中心に纏り出し物が満載！「ラピュタ」のレイアウトが2~4万円、セル画が3~8千円、「ナウシカ」のサイン色紙が20万円などなど。最も高い値がついていたのが「ハイジ」第一話の生絵コンテで、なんと60万円！他に面白いのが「ナウシカ」のボスターの印刷原画（もちろん金属性）が売られていたこと。メインスタッフルームにてみんなでコピーを取り囲む。二本木さんや遠藤さんは自分の描いたレイアウトが売られていることに複雑な表情を浮かべ、宮崎監督は、「色紙一枚20万で売れるんだったら、一日5枚づつ描いて生活しよう」と冗談を言っていた。勿論鈴木プロデューサーは渋い顔。絵コンテCUT1034~1085まで53CUTアップ。総秒数は、92分12秒。

96.6.20 (木)

テレビマンユニオンの浦谷さんが来社し、例によってカメラを廻す。本日も11時頃から夜食会が開催される。今回はトマトソースバググティ。なお浦谷さんによって高坂さんの調理している模様がビデオに収録された。

96.6.21 (金)

CUT700番台の月光シーンの35ミリ色テストラッシュを行う。色調を変えずに色のコントラストを統一して表現したい保田さんと、それを崩し、上着の色のみコントラストを上げたいと主張する宮崎監督の意見が対立。作監の安藤君を含め廻りの人は、宮崎監督に意見を求められても「まあ、どちらでも...」とどっちつかずの意見に終始。

結局保田さんは宮崎監督に押し切られるもなんとなく納得できない様子。ただ黒田さんの美術の美しさには全員驚嘆の声を上げる。

包帯男のマッピング処理のためのラッシュを行う。ついでに色バカ発見。

主役のアシタカの声が「風の谷のナウシカ」のアスベルや「家族ゲーム」の松 治さんに決定。（すみません、今はまだ内緒です）

大村さんが約半年をかけて描き上げたタタリ神の動画をアクションレコーダーに入れてみる。蛇がきちんと送られている。こりや時間がかかるわ。

絵コンテの内容について宮崎監督が、高坂さん、安藤君に意見を聞きながら、時間の流れとCUT割りの関係について解説。

96.6.24 (月)

「今朝5時までかかった」と宮崎監督が、本日の打ち合わせ分の絵コンテを上げてきた。CUT1,086~1,141まで57CUT、計1,149CUT、95分12コマ。

栗田君打ち合わせ。CUT1,086~1,119まで35CUT。

大谷さん打ち合わせ。CUT1,120~1,140まで21CUT

96.6.25 (火)

7月中旬に社員旅行を行うことに突然決定したが、宮崎監督、鈴木プロデューサーは不参加。また行く方法について好きな方法で行きたいと主張する、実行委員長制作部田中と、全員揃って電車とバスを乗り継いで行かせたい宮崎監督が対立し、おまけに向こうに着いてからの行動についても基本的に自由を主張する田中と各種イベントをさせたい宮崎監督が対立。あわや中止というところまでいくが、鈴木プロデューサーの説得で田中が宮崎案を全面的に受け入れ決着。

96.6.27 (水)

新人たちが研修の最後にセル画を制作している。みんな横から覗いては、あの色はいまいちだとか、麦酒がまるでオレンジジュースに見えるとか、いいかげんなことを言いまくって研修生を困らせている。

カレンダーの仕事が終わった男鹿さん来社。Cパートのボードを何枚か持つてくる。その際、先日リテークになったCUT1について宮崎監督の説明を受ける。宮崎監督の要求は、今のままだと立体感がでないのと、スーパーの雲の感じがまいちなので、折り重なった山の部分を4つのブックに切り分け、雲を密着で引っ張りたい、というもの。結局、男鹿さんが、修正ではなく、全て描きなおすことになる。

篠原さん打ち合わせCUT1063~1085まで23CUT

96.7.01 (月)

原画昇格テストが行われる。7人が挑戦。その取材で朝からテレビマンユニオンの鈴木さんが来社。ユニオンの新入社員の研修もかねてカメラを廻していた。

夕食は宮崎監督御自ら作ったソバ。所沢からこの日のために買って来たザルにてんこ盛りとされ出される。

96.7.04 (木)

ディズニー映画「ノートルダムの鐘」の35ミリ上映会がバーで行われる。わりと評判は良かった。宣伝会社メイジャーの人によれば、ジブリのスタッフ達は、他の試写会ではまったく笑いの無かったシーンで大爆笑していたとのこと。

96.7.08 (月)

朝から再び田荘さんが来社し、鈴木プロデューサー、安藤、館野、保田、山本二三、奥井、菅野らにインタビュー、それぞれの職場をビデオカメラ

96.4.17 (水)

宮崎監督の風邪が悪化。タバコも吸えないほど苦しう。某原画マン（29歳・男）がうまく原画が描けないイラストから、トイレのドアを殴り、ドアが見事にへこんでしまう。本人は「明日総務の古林さんに謝ります」と反省しきり。

96.4.18 (木)

宮崎監督が「神経症で不眠症になってしまった」と朝9時50分に出社。日本テレビの新入社員50名（！）が研修でジブリを見学。鈴木プロデューサー、野中さんの講義のあと15、6人組となって、川端、田中、野中の三人が社内を案内する。

7時半より会議室にて第二回「人間は何を食べてきたか」を観る会が開催される。今回のテーマはソーセージ。宮崎監督が、ジブリのグルメ王、総務の一村教授が推薦する、武蔵境のマイスタームラカミのソーセージを1万円分、野崎さんがチーズ、篠原さんがフランスパンをそれぞれ会のためにカンパ。食べ物に釣られてか大盛況。

96.4.23 (火)

演助の新人研修生石井君が研修の一環として制作部にくる。朝から早速絵コンテコピーをやらせてもらおう、それを見た宮崎監督は「田中の新人いじめだ」と社内にふれまわっていた。

屋上に作った庭の芝生が鳥によってひっくり返される事件が多発し、対策が待ち望まれていたが、ついにCG部片渥さんの見つけた鳥撃退用の鳥人形が屋上に設置される。結果は果たして。

福村氏打ち合わせ。858~863,865,867~872まで14カット。

午後より石井君が、CG部でデジタルペイントの初仕事。

鈴木、大森、奥田の中年トリオが、夜の11時すぎに風邪で休んでいる制作業務の野中さんを見舞うと称して、部屋を覗きに行く。

96.4.24 (水)

屋上庭園のスプリンクラーが初仕事。

男鹿さん来社、リテークの1カットと、まだレイアウトが確定していないカット兼用を除いて、手持ちが終了する。今後はジブリカレンダーに専念し、終了後に「ものけげ」に復帰予定。

風邪で二日も休んでいた野中さんが復帰するが、前日中年トリオに部屋を見られたショックから立ち直れない様子。あーかわいそう。

因みに、野中さんの部屋は、凄まじく散らかっているような。部屋を徹底的にかたづけたくば、引っ越しが一番。

96.4.25 (木)

筑紫哲也氏がニュース23の収録のため来社、屋上に宮崎監督と対談を行う。危ない発言も多数飛び出し面白い対談となる。テレビマンユニオンの取材も入っていたので、これ幸いと、写真を撮りまくる。スタジオにはけっこう筑紫ファンが多いらしく、写真を譲ってくれとの依頼多数。

96.4.29 (月)

宮崎監督が朝から鍼へ行く。最近回数がかなり多くなったと思うのだが...

96.5.06 (月)

夕食に篠原さんがスバググティを作って休日にもかかわらず今日出勤している全員にこ馳走してくれる。全員で机を囲んでイタリア式の夕食をとる。鈴木プロデューサーがアメリカから帰国、早速ジブリに社出してくる。「ものけげ」のディズニー配給による全世界公開が決定したもよう。「金が儲かるんらいいじゃない」とクールな反応の宮崎監督がさっそく極秘事項だというのに社員にふれまわっていた。

96.5.16 (木)

鈴木さん経由で、徳間社長にトトロマークを徳間の名刺に使わせてくれ、と頼まれた宮崎監督、

「徳間にはこのマークが最適」と手には羽、足には団扇をつけたひげちよびんの男がばたばたと空を飛んでいるマークを新たに考案。

早速鈴木さんが徳間社長に見せたところ、なんと見事に採用となる。

96.5.18 (土)

宮崎監督が一時間程遅刻。ラッシュが12時頃から変更。宮崎監督からスバググティパーティ開催のため、マイスタームラカミのソーセージを手せよ、との指令が飛ぶ。夕方ラッシュ時の踏切を車で往復する暴挙。3千円分のソーセージを手。

ジブリ作品のLDボックス全集「ジブリがいっぱい」の解説書用に頼んだ原稿を、庵野さんがなかなか書いてくれないので、野中さんがノイローゼになりそう。あつ、もうなってるか。

96.5.22 (水)

片渥、百瀬、奥井、野崎、石井君とプロダクション・アイジーへコンピューターの見学に行く。一通り見学したあと、押井守氏と懇談。「デジタルペイントのシステムについては、ジブリは率先してやらなければいけない立場にいる。この業界でそれらの金銭的リスクに耐えられるスタジオは他にないのだ。またジブリがあるシステムを採用すれば、他のスタジオはそれについてくる」と力説していた。また「やるなら精神的な援助は惜しまないよ」とパトレイバーの後援隊長みたいなことも言っていた。押井さんの話を聞いていると、ジブリはそうしなければいけない、という気分になってくるところが恐ろしい。まったく押井さんの話し方には天オ的な説得力がある。

96.5.25 (土)

「Cパートは終わり」と言っていた絵コンテの追加が上がる。CUT977~998まで22CUT。合計で1,004CUT、85分35秒7.92コマ。

近藤喜文さんが社員にアイスクリームをおごる。

箕輪さん打ち合わせ。CUT951~970まで20CUT分。

清水さん打ち合わせ。CUT977~998まで22CUT分。

96.5.27 (月)

休日。夕食に休日には、恒例となりつつあるスバググティが出る。料理長はもちろん作監の高坂氏。

96.5.28 (火)

宮崎監督が考え付いた新雑誌「がじ」（意味は「がんこじい」）の企画を出版部に出す。これは徳間が出している「Jマーカ」の対極をなすような雑誌



[Image] ある日のラクガキ

ところだったんです。来てくれて心の重荷が取れました」です。

96.10.03 (木)

社内の動画メンバーに、現在のスケジュールが如何に危機的な状況にあるのかを説明し、奮起を促す。

96.10.04 (金)

11時半より会議室にて、ディズニーとの提携に伴う会議が行われる。内容は、ジブリがディズニーに渡さねばならないものを確認し、その担当者を決めること。作品素材、宣伝素材、キャラクターグッズ等様々なものを用意しなければならない。川端氏がその中心となって作業を進めることに。

音響の若林さんが来社、スケジュール、アフレコの相談を行う。声をあてる俳優で決定しているのはアシタカ役の松 治さんのみ、その他若林さんが候補として持ってきたのはサン役の りえ、エボシ役の山 智 等。しかし鈴木プロデューサーの予想通り、宮崎監督に声を聞かせたところほぼ全滅。話し合いの結果、サン役には石 り子、エボシ役には田 裕、ジコ坊役にはす い、ゴンザ役には 置 二 (!) モロ役には美 明 の各氏が候補となる。(すみません、今はまだ内緒です)

三原さんが打ち合わせ。CUT1,285~1,301まで17CUT。

96.10.07 (月)

昨日野崎さんがイタリア製コルナゴの自転車を購入し、早速相模湖まで行って来たそう。所要時間は、約一時間半と先日同じく相模湖まで行って来た笹木くんの約半分。それを聞いた笹木くんがかなりショックを受けていた。

10月11日金曜ロードショーの「耳をすませば」テレビ放送時に流す、「ものけ姫」の紹介コーナーの取材、撮影アリ。

原画が次々と手持ちを終了させそうな気配あり。桑名、芳尾、稲村各残1、小西残2、森友残4等。宮崎さんに報告し、絵コンテをなんとか打ち合わせ分だけでも上げてもらおう催促。

96.10.09 (水)

ここ3週ばかり動画チェック上りの平均が1,300枚位と低迷している。リスマスクを除くと週1,000枚程度しか外注に回っていない。少しずつ動画マンを増やしつつあるが、動画が内容も後半にいくにしたがって難しくなっている。なかなか数字に現れてこない。とりあえず社内人間には呼び出してはばかけたが、もっと外注動画を増やすしかないのか。

96.10.14 (月)

絵コンテ1,336~1,466まで130CUTが完成する。

総CUT1,453CUT、113分36.25秒 (1CUT平均4.69秒)

96.10.15 (火)

2時より会議室にて、昨日上がった絵コンテを担当する原画マンを集めて、簡単な説明会を行う。引き続き森友さんの打ち合わせ。CUT1437~1465まで28CUT。

宮崎監督が、日曜日にBSで放送された「素晴らしき地球の旅・イタリアシエラの町の草競馬」が非常に気に入らしく、社内で「見たか」を連発。あいにく見た人は少なく、ビデオに録った人もいなかった。果たして再放送はあるか。

96.10.16 (水)

特殊効果の橋爪さん来社。タタリ神の特効打ち合わせ。

コミックボックス三好氏からTEL。先日の「耳をすませば」のテレビ放送時に流された特報を本に載せたいという。鈴木プロデューサーのOKをとり、特報のプリントを丸ごと渡すことに。何時も発売予定を守ることができないコミックボックスだが、今回は三好氏が「3日までに発売できれば寿司をおごりますよ」と豪語 (多分無理)。

96.10.26 (土)

ラッシュチェックが行われる。狸々のアップCUTが3CUTほど上がってくるが、「気持ちが悪すぎる」という理由でリテーク。ノーマル色を一段落とすことで決着。

クロマカラーから絵の具が到着するが、モロの体に使っている480番の色が、前回のものとはかなり違う。と保田さんから苦情が出る。早速抗議と、作り直しをお願いするFAXを送る。

96.10.30 (水)

作監上りの欄に何も無い状態になってしまった。安藤君に言うも、青ざめているだけ。今まで限界に近い状態で仕事をしてきたため、これ以上のペースアップは不可能だろう。宮崎監督が何らかの方策を取らなければならない時期に来ている。

特殊効果の前川さんに、タタリ神の特効を2CUTお願いする。

久々に高畑監督出勤するも、あっというまに退社。

96.11.08 (金)

浦谷さんに連絡が付き、1時頃にカメラマンが到着。作打ちをカメラに納める。篠原さん打ち合わせCUT1,352~1,361、1,364まで11CUT。

宮崎監督から突然、今や日本を代表するカウンターテナー米 一氏に「ものけ姫」の歌を歌ってほしいと提案がある。早速出たばかりのCD「母の日 歌集」を購入。(すみません、今はまだ内緒です)

大のチャンバラファンである鈴木プロデューサーが日本刀 (模造刀)を購入。早速社内で振り回していた。

96.11.09 (土)

ラッシュチェックあり。

浦谷さん来社。日本刀を腰に下げ、社内を歩き回る鈴木プロデューサー等を撮影。

96.11.11 (月)

来年の夏に、社内スタッフを中心として、宮崎監督の別荘まで、165キロを一気に走り切る自転車レース「ツール・ド・信濃境」が行われる予定であるが、宮崎監督が名称を「ツール・ド・信州」に改め、大々的にボスターを作り、壁に張り出す。参加公募用のものと、既に参加を表明している14人のプロフィールを写真入りで紹介し、宮崎監督のコメントを加えたエントリーポスターの2点。それを見た、日本テレビの奥田プロデューサーが100キロ近くの巨体を揺すりながら「俺も昔は自転車に乗っていたのだ。エントリーしたい」と参加を表明、大会審査委員長・宮崎監督の許可も下り、参加者は総



ジブリでは立花隆さんも講演に招いている。(イラスト片山雅博)

に収める。朝11時から始まった取材は、最後の宮崎監督 (昨日だけではもの足りず再びインタビューを敢行) が終わった時点で夜の10時になっていた。田監督の恐ろしいまでの粘りと根気。さすが中国共産党と10年以上にわたって戦ってきた男である。

96.7.11 (木)

ディズニーから「ノールダムズ」の監督二人が来社。

絵コンテが1,200CUTを超えたが、未だに終わりそうな気配がない。おまけに1CUT当たりの秒数がますます短くなっている。

96.7.22 (月)

朝から宮崎監督が、今朝おこなわれたオリンピックのサッカー中継 (日本がブラジルに勝った) や、昨日放送されたツール・ド・フランス総集編に興奮気味でやたらとテンションが高い。

96.7.23 (火)

宮崎監督、鈴木プロデューサーがホテルオークラでのディズニーとの提携記者発表に出席。

宮崎監督が「1,500CUTとして今のペースで原画はいつまでかかる？」と聞いてきた。予定の1,380CUTより120CUT増えるということは、良いペースでいって1ヶ月、現在のペースで行くと2カ月近くスケジュールが延びてしまうことになる。もっとも元々のCUT数でも原画10月いっぱいアップというもほとんど不可能な状態で、1,500CUTでこのままのペースだと1月一杯までかかりそうな気配だ。原画メンバーを増やすことを考えなければならない。宮崎監督と要相談。

96.8.03 (土)

宮崎監督が息子の結婚を前に、嫁の実家、山形まで行ってしまったらしい。聞いてないよ。

96.8.08 (木)

ディズニーに対し、大森さんが引き続き交渉を進めたが、やはり今週会うことができないという。ただ来週の月曜日なら時間を作れるという回答を得る。これを奥井さん一行に伝えようと、宿泊先の「ユニバーサル・シェラトン」にTELするが、そんな方々はいないという返事。また、シークラフに出席後、チケットが取れずにニューオーリンズに足止めを食らっている菅野さんから「奥井さんに連絡を取ろうとユニバーサル・シェラトンにTELしたらいけないと言われた。どうなってんの？」と国際電話が入る。うーん謎だ。所謂行方不明。

夜7時から屋上でジブリ北海道コンビ、出版部野崎と制作部田中主催によるジンギスカン&焼き肉パーティを開く。メインスタッフ、美術、仕上げスタッフ、谷藤さん、ガイナックスの有志総勢30人が参加、大盛況となる。中でもジンギスカンの人気は絶大で、近藤喜文さんなどは手放して大絶賛。ただ一人宮崎監督だけは、「あのベルジウムジンギスカンのたれを付ければ何食ったって同じだ」と悪態をついていました。

96.8.12 (月)

本日より宮崎監督、保田さんと夏休み。

96.8.26 (月)

今日は何時もより涼しいが、宮崎監督からクーラー禁止令が出る。広島国際アニメーションフェスティバルが昨日終了したため、各国のアニメ関係者からジブリを見学したいとの連絡が次々入る。明日マレーシアの演出家が来社。

96.8.30 (金)

ラッシュチェックが行われ、引き続きスタッフ向けラッシュ上映を行う。ここ何日が話題になっていた、消えた漫画家徳南晴一郎の幻の作品「人間時計」の単行本を、ジブリで1、2を争う漫画マニアのCG部片瀬さんが持っていることが発覚する。早速持ってきてもらうが、宮崎監督は一読しただけで「くだらん」と一言。

名古屋出身の鈴木プロデューサーが巨人対中日戦のテレビ放送にかじりついている。宮崎監督が同点の展開をみて、「今日の感じだと、こりゃ12時までかかるな」と予言。なんとそのとおりに試合が終了したのが11時50分だった。

96.9.04 (水)

宮崎監督が、すでに上がっているDパート22、26ページを描き直す。スタッフに早速配布。

宮崎監督が来たるべき関東大震災に備えて、災害訓練を兼ね、会社で芋煮会を行うことを表明、早速古林さんと味付けその他について激論を交わしていた。災害訓練&芋煮会に出た「震災の時にすぐ会社に駆け付けられることができる独身社員を10名ほどピックアップせよ」との指令に基づき、会社から2キロ圏内を目安に10人ほど人選するが、「5キロくらいなら歩いて大丈夫だ」との宮崎監督の意見を取り入れ人選のやり直し。

96.9.09 (月)

宮崎監督が今月絵コンテアップ断念宣言。曰く「今月は落ちる」。

高畑さんがいよいよ次回作の準備のため明日からスタジオIN (ホントか?)。その準備室作成の為、編集室の大改造を実施することに。

96.9.13 (金)

宮崎監督の赤い三輪車が、長い闘病生活から今日復帰。監督は朝からそわそわ。

オムニバスに行き、若林さんと音響の打ち合わせ。作画作業が遅れている為、A BとC Dパートを別に作業を進めることを検討する。

96.9.23 (月)

宮崎監督、ツールのビデオを見て「インデューラインが登場する前のツールの方が圧倒的に面白いじゃないか」と興奮気味。

96.9.26 (木)

さっぱりジブリに社出ししない高畑監督に業を煮やした鈴木プロデューサーの命を受け、高畑監督宅へ様子を見に行く。ジブリに来ないのはジャック・ブレバールの詩の翻訳に熱中しているかららしい。今日で完成するので、来週火曜日の夕方から社出ししたい (明日か) と、と言われないところが凄いのとこのこと。高畑監督曰く「いやー来てもらって本当にうれしい。毎日、今日は会社に行かなきゃ、と思いながら休んでいたの、良心の呵責に耐えかねていた

うな部分の色が薄くて、背景と重なってしまう点が問題になる。それぞれのセルが100枚づつあるCUTなので、直しを入れるのを躊躇したが、いくつかの手法を組み合わせ、他のCUTと合わせるように修正することに。
コミックボックスのオ谷氏と三好君が来社、鈴木プロデューサーに「もののけ姫」特集号の企画を持ってくる。鈴木プロデューサーは「耳をすませば」特集号の実績があるだけに「なんでも好き勝手にいいよ」と返す。

96.12.17 (火)

デイビッド君からFAXが送られてくる。今月26日に来日し、友人宅に居候しながら部屋を探したいとのこと。日本に来たらず連絡をくれるそう。今日は野中さんの36回目の誕生日。野中さんの寂しい誕生日をみんなで祝おうと宮崎監督が「野中さんお誕生日おめでとう」の名前入りのケーキを購入する。みんなに「ハッピーバースデー」を歌ってもらおう、36本の蠟燭を一気に吹き消す野中氏。ところで、野中氏と共に制作、出版社の三十路花の独身トリオを組む残りのデスク田中と出版野崎は「俺のときには何も買ってくれなかった...」と小学生のような駄々をこねている。

96.12.20 (金)

宮崎監督が朝から鍼。

年末ビデオの制作が、いつもの年に比べて快調に進んでいる。理由は、撮影部古城君に手伝わってもらいながら、音から映像の編集までの全てをマックを使って進めているからなのだ。いつも大掃除をほっぽらかして忘年会ざりざりまで作業をしている演助の伊藤君だが、今年は何年か振りで大掃除参加が実現するか？

正月休みに出てきたい社員のために、田舎に帰らない演助有富君に鍵あけをお願いします。宮崎監督が出社しない元旦と2日、それに日曜日以外の毎日。

96.12.22 (月)

出社率悪し。演助も来ない。

宮崎監督主催で簡単なクリスマスパーティが行われる。

96.12.23 (火)

宮崎監督が、原画の残りCUTの詳細な割り振りを作り、原画メンバーを1手持ちで一杯の若手 2手持ちで一杯のベテラン 3まだ追加できる人の3班に分けて会議室に集め、最終スケジュールの通達をする。できもしない予定を立てて、スタッフを混乱させるのでは無く、実現可能な月日に原画アップを設定し、それに向かって一人一人がスケジュール内における努力をしていくようお願いする。また、原画の助っ人として杉野左枝子氏に連絡を取る。

テレビマンユニオンの浦谷さんが、忘年会のピンゴの景品に、自転車(もちろんツール・ド・信州の強制?参加券付きだ)を提供してくれることに。

96.12.27 (金)

近藤喜文さんが、ついに自家用車をボロイ国産からドイツ製のオベル・アストラに買い換える。宮崎監督は「ようやくあの汚い車を見なくてすむ」と満足げ。「耳をすませば」を監督中に宮崎監督と結んだ3つの約束がようやく果たされたわけだ(「耳をすませば」のパンフレット参照)。

果て会用ビデオがほぼ完成。あとはCG部片瀬氏が作るタイトルを組み込むだけ。奇跡だ(昨年は忘年会が終わる30分前に完成)。来年も古城、伊藤コンビで決まりだな。

96.12.28 (金)

午後から大掃除。伊藤君も何年かぶり参加。

午後5時より忘年会開始。今年は約100人と人数が多い為、立食パーティ。出し物の出来具合だが、伊藤君のビデオは大喝采、新人達の歌や演奏は今一歩の反応に終わる。

1997

97.1.06 (月)

仕事始め。

一昨日、夜11時30分ついに「もののけ姫」の絵コンテが完成。と思ったら、一晚考えて昨日一部修正し本当の完成。因みに昨日1月6日は監督56歳の誕生日。「55歳のうちに完成させたかった」は宮崎監督のコメント。

朝から絵コンテのコピーを始めるが、コピーの調子が悪く思うように進まない。昼前、ついにコピーがクラッシュ、修理屋さんと呼ぶ。もののけのタリカ。

完成した絵コンテをもとに各CUT最新の秒数をまとめ、総尺数を出してみたところ、なんと130分を越えてしまった。エンディングを入れずにである。ひえー、鈴木プロデューサーになんと報告しよう...

97.1.07 (火)

総尺数を鈴木プロデューサーに報告。頭を抱えている。こちらは制作チーム川端氏と共にとらえず、制作のスケジュールの最終決定と、音響スケジュールの検討を始める。

97.1.8 (水)

鈴木プロデューサーが宮崎監督に「絵コンテあれでいいんですか」といきなり切り出した。「やはりエゴシはやはり...云々、アシタカが...云々」とたまたまかけるような攻撃が続く。宮崎監督は、しばし考えた後「もうちょっと長く物語を終わらせる方法が見つかった」とコンテ改変を宣言。さてどうなるやら。

97.1.09 (木)

今週は異常に動画が上がっていない。仕上げに入れる動画があまりに少ない為、チェック上りを保田さんにすぐ色指定をしてもらい仕上げスタジオに廻している自転車操業状態。トホホ...

97.1.10 (金)

宮崎監督のコンテ改変が進行中だが、どうも尺とCUT数が増えているらしい。「プロデューサーがOKしたからいいのだ」と言っているが、これ以上増えるとスケジュールが...

宮崎監督から「増えた分のレイアウトを描くから、15CUT位できるアニメーターを探してくれ」と指示がある。早速以前からジブリ作品を手伝ってもらっているI氏に連絡をとる。

I氏と自宅近くのファミリーレストランで会う。「いやー時間が無くて...」と



これがジブリの屋上のトリケラトプス

勢15人となった。もちろんエントリーポスターにも写真入りで登場。しかし、それを見た鈴木プロデューサーは、内心「奥田さんに死なれては困る」とも思ったのか渋い顔。

96.11.13 (水)

来たるべき関東大震災に備えて、ジブリ総出の防災訓練が行われる。今回のポイントは大きく分けて1.炊き出し(今回は芋煮) 2.非常用トイレの設置 3.発電機の操作の3つ。2、3はなんの問題もなく終了したが、炊き出しは、かなりの強風だった為、炊き出しの釜から出る、火の粉が周りに飛び散り、かなり危険な状態であった。しかし芋煮はうまく出た。

遠藤さん打ち合わせ。1,404~1,418まで15CUT。

浦谷さんが来社し、防災訓練、打ち合わせを取材。

「ツール・ド・信州」のサポート班紹介ポスターが張り出される。因みにますますこの現実逃避に盛り上がる宮崎監督、取材に来ていた浦谷さんに「レースの模様をビデオカメラに収めるといくら位かかりますか」と質問していた。本気?

ついに制作部とCG部がネットワークでつながる。早速デジタル処理CUTの一覧表を双方の共用スペースに入れ、いつでもCUTの所在と進行状況を確認できるようにする。

96.11.14 (木)

宮崎監督が買った、トリケラトプス頭部のレプリカ化石がジブリに届く。

多くの社員が見守る中、屋上の芝生の上に設置。

96.11.16 (土)

宮崎監督がカタツムリをデザインした「ツール・ド・信州」のユニフォームを考案。本気で作るらしい。

96.11.20 (水)

昨日高坂さんが、帰宅途中車と接触、顔面打撲他、身体中に擦り傷を負う。自転車もタイヤやフロントフォークがおしゃかになったそう。過失は全面的に車にあるらしい。面白いのは、相手の保険会社から「あの自転車はいつ、いくらで買ったのですか?」と質問のTELがあった際、「今年4月に40万円で購入しました」と答えたところ、あまりの値段の高さにしばらく絶句していたとか。

96.11.27 (水)

コミックボックス三好氏が、半年がかりで作上げたユーリ・ノルシュテイン特集号を持って来社。社内にちょっと声をかけたら、持ってきた20冊があつと言う間に完売。世間の人は忘れても、ジブリではノルシュテイン人気は健在だ。

96.11.28 (木)

大塚康生さんの同人誌「大塚康生のおもちゃ箱」が送られてくる。昔の東映動画時代の宮崎、高畑監督の写真や、中傷絵画展と題された、いたずら描きべらぼうに面白く、社内で大受け。宮崎監督も自分の机で、若き日を思い出したのか、一人読みフケっていた。

社員の約半数が購入。

クロマカラーから前回リテークとなった絵の具が到着。今回は大丈夫なようだ。

96.12.02 (月)

近藤勝也氏が今日から原画に参加。CUT1466~1500まで34CUT。

出版部助手、及びインターネット担当として石光紀子さんが今日から参加。

絵コンテ1467~1543まで79CUT分完成、計1,532CUT118分29.25秒となる。宮崎監督曰く「もうここまで来れば完成したも同然」。ほんとか?

近藤喜文氏発案で「絵コンテ・完成したも同然」記念パーティ(それほどのこともないか)をメインスタッフコーナーで行う。メニューは相変わらずワンパターンのピザ。

96.12.04 (水)

突然大塚康生氏が来社し、バーにてサイン会を行う。作画スタッフを中心に長蛇の列。

スタジオロビンの入れを今月10日に行うことに決定。

制作部のバイトの居村君が、2度目の挑戦で、自動車運転免許卒業検定をパス。あとは府中で学科を受けるだけとなった。ようやく外回り要員が一人増える。昨日も国立駅で人身事故が起きたが、最近頻繁に起きる中央線の飛び込みを防止しようと、宮崎監督が飛び込み防止塗装のデザインを考案する。

96.12.09 (月)

宮崎監督が監をそって出社。今まであった威厳がどっかへ吹っ飛び、10歳程度返ったよう。そのあまりのイメージの変わりようにスタッフは戸惑い気味。

96.12.12 (木)

朝11時半に警察からTELあり。原画Y氏が出勤途中に事故。小金井市緑町で、バイクで出勤中ハンドル操作を誤り、電柱に激突、空中を20メートル程飛んだらしい。病院での検査が進むうちかなり重傷なのが判明する。腰の骨、骨盤、背骨の骨折、それに加え、命を落とすことさえある内臓からの出血。医者に、ここ二三日で出血が止まらなければ危ないと言われる。最初の事故の一報では、骨折程度との連絡だったので「原画をどうするんだー」と怒っていた宮崎監督だが、重い病状の報告を聞くにつれ、心配でいてもたってもいられなくなってきた様子。17時半頃に病院に詰っていた総務荒井氏から、出血が止まり命の危機は乗り越えた、との知らせが入る。宮崎監督を含め、社内に安堵のため息がもれる。

近藤勝也氏がレイアウトの第一弾をあげる。やっぱり上手い、早い。

宮崎監督、鈴木プロデューサー、高坂、近藤喜文両作画監督を交えて、Y氏が持っていた14CUTの原画を誰に配分するか話し合いが行われる。現在の原画マンの中にはこれ以上余裕のある人物はなく、宮崎監督からの提案で、近藤喜文さんに描いてもらうことに。

96.12.14 (土)

朝11時から、毎年恒例になったジブリ・キャラクター商品部によるグッズ即売会が行われる。毎度の近藤喜文氏、川端氏らによる買い占めも起こり、目当てのものを買えない人も出る。

ラッシュチェックが行われる。いくつかリテークが出た中で問題になったのがCUT34。ブラシが薄くて下の蛇状の物体が見えすぎる点や、本体の影のよ

夕方瀬山さん来社。緊急込みの後、A+B+Cの頭のラッシュを見る。終わった後、納得できる出来だったのが宮崎監督の機嫌がやけに良くなっている。夜、宮崎監督が突然シュベルトに目覚める。「天才だ！」を連発しながら野崎氏に借りた弦楽四重奏「死と乙女」をメインスタッフルームで聞き続けている。

97.1.30(木)

朝から瀬山さんが来社し、カットング作業。明日まで時間をくれと言っていたが、夜には終了。Aパート28分40秒11コマ、B+C1パート29分9秒、タイトル23秒の計58分12秒11コマ。

会議用資料作成の為、米沢さん、石光さんを巻き込み必死に原稿書き。マックでクォークを使うときれいにならざるが、時間はやけにかかる。

音響スケジュールに関して鈴木プロデューサーを含めて話し合いが持たれる。前回の音響作業から2年も立っているため忘れていたことが多いことに気づく。たとえば、音響打ち合わせに音楽との関係。音楽の打ち合わせに音響は参加したか？音楽の打ち合わせに音響は参加したか？等基本的な事が思い出せない。

リテークCUTが整理されずに掘出し机に放置してあったの発覚、宮崎監督が朝から伊藤君に雷。

97.1.31(金)

11時半から1階バーにてA+Bパート及びCパートの頭までのオール(パート?)ラッシュを行う。線振りがたった2CUT!。上映後に宮崎監督から「これから絵コンテが上がらなかった事を棚に上げて、催促しまくるのでそのつもりで」と日曜返上の追い込み宣言あり。

ラッシュ後に宮崎監督から1CUT欠番の指示あり。CUT定尺が出たラッシュ

をテレシテラッシュをオムニバスにまわす。

夜中に日本テレビの奥田さん等の差し入れあり。残っていたスタッフがお土産のチキンラーメンを作るため鍋の奪い合い。

97.2.1(土)

鈴木プロデューサーから会議用資料の最終リテークが出る。最終的に修正が完了し、コピーを始めたのが夜の10時すぎ。今回は表紙や内部にカラー満載の豪華版である。会議ごとにエスカレートする資料に「次回はどうなるのか」と関係者が心配の声。

保田さんとスタジオキリーに「なんとか最後まで付き合ってください」とお願いに行く。

97.2.2(日)

今日からみんな日曜出勤。だいたいみんな昼前の出社となる。

宮崎監督が所沢の秋津から歩いて出勤。理由は「日曜日に出社すると散歩の時間が取れないから」。ちなみに距離は13キロ、所要時間は2時間半。

動画チェックが完全に動画に追いつき、中込さんが手空き状態。いかに。

I氏の初原画アップ。

野崎さんが外出先の近くで見つけたコージーコーナーでワッフル等の差し入れを買ってくる。

野中氏が公団住宅のモデルハウスの見学に行き、ついに念願の引っ越しの決意を固める。抽選にあればの話だけだ。

宮崎監督が昼食にチキンラーメンを作った途端に、奥井さんからC/G合成のチェックの依頼。終わってみればチキンラーメンのつゆが無し。それでも全部食べたところはさすが。

安藤氏が、宮崎監督のラフを元にポスター第二弾の原画を描き上げる。

97.2.4(火)

久石譲氏来社。宮崎監督と音楽打ち合わせを行う。

1月中旬に行われた健康診断の結果が出る。さっそく問題のあったスタッフ向けに保健医の面接が行われる。何時もパンシク食わない野崎氏は、貧血と栄養失調の疑いで、要精密検査と通告される。やはり日本人は米を食べなきゃ。ところで私の健康診断はオールAだったのだが、宮崎監督から「この時期に制作がオールAという事は、いかに仕事をしていないかの証明だ」と言われている。

昨年10月末より制作業務部に、某会社のスパイとして出向してきている米沢さんの似顔絵を鈴木プロデューサーが描く。今まで幾人かの似顔絵を描いてきた鈴木プロデューサーだが、私のものを含めて悪意のこもったものが多かった。しかし今回の似顔絵は、米沢さんの真実に近い姿が描かれていて好感が持てる。これには人の絵をめったに褒めない宮崎監督も「特徴をよくとらえている」と絶賛。本人は「...」。

制作部の居村君が、インフルエンザとおぼしき症状で早退。

97.2.6(木)

ポスター第二弾のセルが上がってくる。宮崎監督が背景と合わせてレイアウトの微調整。

各原画マンの残りCUT数から、スケジュール内に終わらせることが困難な何人かをピックアップし、会議室で個人面談。約2名、計10数CUTが間に合いそうもないことが発覚する。いろいろ手を打たなきゃ。

鈴木プロデューサーは昨日から「ものけ姫」の宣伝で福岡、名古屋に出張中の為、社内のみよーに静かである(地声がとてめでかいのだ)。

97.2.8(土)

通常のラッシュと したデイダラボッチのテストラッシュが行われる。テストラッシュはOKが出ず、完全にだめなパターンは排除しつつもう一度やり直し。

浦谷さんが取材に来社。

宮崎監督が米沢さんの似顔絵に手を加え、アザラシのようにしてしまった。鈴木プロデューサーはさっそくグッズ化を検討するも商品部今井氏は冗談としか受け取らず。野中さんをモデルにした「野中君」の商品化に失敗した実績があるだけに、今回もだめだろうというのが制作部の一致した意見である。初めは嫌がっていたモデルの米沢さんは「人間ばなれてしまったのでもう僕だとわからんでしょう」と静観を決め込んでいる。

今週もかなりのペースで原画が上がってきたが、1CUTあたりの平均枚数が112枚と、先週あたりから今までの1.6倍になっている。このまま行くと総枚数が...あー考えたくない!

か「とても他の作品を描きながらできる仕事ではない」等、なかなかガードは硬い。とにかく担当部分の絵コンテを見てから決めるということなので、宮崎監督に催促。

監督のコンテラフ完成。I氏取捨のため、明日ラフコンテを見せる際、宮崎監督も同行することに。もちろんI氏には内緒。

97.1.11(土)

宮崎監督から、どうしても社内では振り分けられそうもない原画について、I氏以外にも、「一人5CUTずつでもいいから声をかける」と指示が出る。宮崎監督とI氏に会いに行く。突然会いに来た監督にメチャクチャ困った顔をしていたが、なんとか12CUT描いてくれることに。I氏に「一生恨む」と何度も言われる。

今日の夜に金田伊功氏に会いに行く約束を取りつけたところ、気の短い宮崎監督は直接TEL、原画を描いてもらうことに。

T氏に連絡。「内容を見てから」と言っているが、なんとかやってくれそう。月曜日に待ち合わせてコンテとキャラ表を渡すことに。

制作川端、西桐が、スタジオノマルトを訪問、金田氏に絵コンテ、キャラ表を手渡す。来週中に作打ちに来社。

97.1.13(月)

朝っぱらからひよんなことで宮崎監督の怒りが爆発、あるベテランスタッフが怒鳴られる。恐かったけど社内の緊張感には確実にアップ。

T氏にTEL。作打ちを15日(祝)の15時からに決定。

97.1.14(火)

スタジオロビン、OZからマシンの出が今一步との連絡が合ったため、マシンメンテナンスのプロ村尾さんに2社のマシンを改造修理してもらう。

宮崎監督が、「自分の担当が終わりそうもない原画は自主的に何とかせよ後から上がりません」といってもゆるされないとのポスターを張り出す。休日出勤もやむを得ないか。

97.1.15(水)

3時からT氏の打ち合わせ。CUT1,579~1,589まで12CUT。約束よりかなり多いCUT数になってしまい、またしても恨まれる。4時から急遽決まった助っ人A氏の打ち合わせ。1,611~1,619まで9CUTの予定。7時半よりまたまたビザや高坂氏の作ったパスタの夕食あり。35人がこの食事にありつく。

97.1.16(木)

宮崎監督が突如、Cパートの冒頭50CUTをA+Bパートのカットングに加えたいと提案。ここはセルは上がっているが、黒田氏の背景がまだ20CUTほど残っている。急遽美術で会議を持ち、黒田、吉田、山本、田中夫妻、平原の6人で手分けして作業することに。

K君が3カ月ぶりの原画を上げる。いくら新人とはいえず遅すぎる。宮崎監督もさすがに我慢の限界までできていたのかK君に説教。

明日の若林さん来社に向けて、川端氏と仮の音響スケジュールを立てる。

福村氏の打ち合わせ。CUT1,651~1,660まで10CUT。

97.1.17(金)

朝からスタッフの健康診断。宮崎監督も鈴木プロデューサーも「どうせ不健康だから」と診断を拒否。

金田さんからTEL。打ち合わせは明日16時から。

若林さん、伊藤さん、井上さんが来社。キャストと音響スケジュールの打ち合わせ。

97.1.18(土)

Cパート冒頭の背景は、来週木曜日にはある程度目処が立つ予定。

クロマカラーから絵の具が到着。

金田氏来社、打ち合わせを行う。CUT1,590~1,601まで12CUT。5CUT位とお願いしていたので、またしても嘘をついてしまった。しかし金田氏がいるだけで社内が妙に元気になるのは気のせいかな。今回は外で仕事をやるが、追い込み時に社内にくれと本当はありがたい。

97.1.21(火)

カットングに間に合わせるために急がせていた特殊効果だが、思いの外早く進行している。問題だったCUT4も明日明るいうちに上がる予定。

宮崎監督が酒粕を買ってきたので、原画の森友さんが甘酒を作り社内配る。

97.1.23(木)

CUT1の進行状況について男鹿さんにTEL。なんとか月曜日朝11時までに上げたいとの返事。カットングまでぎりぎり間に合うか。

午後6時のニュースでバンダイ、セガ合併のニュースが流されると、社内はその話題で持ちきり。野崎さんが早速バンダイへ電話し情報収集。しかし新社名が「セガバンダイ」とはあまりに.....

今週も動画上がりが少ない。

97.1.28(火)

C/G部が朝までかかって仕上げたA+Bパートのデジタルカットを朝一でイマジカに入れる(居村君が8時出社)。イマジカに入れたデジタルカットの上がり、明日の4時頃になってしまふ為、瀬山さんに相談し、カットングの時間を5時すぎにずらしてもらおう。宮崎監督にもそう報告。明日は、イマジカで4時にカウンター回収し、5時すぎにラッシュチェック、終わり次第瀬山さんにつなぎ込んでもらい、編集作業に入る予定。

明日夕方までに上げてもらう予定のフィルムをイマジカが10時になっても回収に来ないので、TELしてみたら、回収を忘れていたとの返事。急遽居村君にイマジカへ行ってもらう。

97.1.29(水)

完全に線振りだと思っていたCUT76の特效が上がってくる。デジタル合成なので、完全なフィルムにはならないが、とりあえずキャラには色がつくので、ラボを7時に押さえ、持ち込むことに。と思ったら特效抜けが3枚あり、福留君に修正してもらっていたら、演劇の伊藤君が急ぎと言いつつ、福留君が昼食に出てしまった。よって特效上がりは3時の予定になる。撮影が果たして間に合うか。

上記のCUT76は結局線振りでカットングに臨むことに。宮崎監督曰く「線振りが無いと編集の雰囲気が出ないから」



ごまちゃんならぬ米ちゃん

アフレコは「ジェシカおばさん」以外にあまり経験の無かった森さんでしたが、最初にぎこちなさが見られた程度で、数回当てるうちにびったりと収まってきたのはさすがでありました。最後の台詞「すこやかであれ」には宮崎監督も「この台詞だけでやってもらったかがあった」と大絶賛。実は森さんは、この話があるまで宮崎監督の事を知らず、作品も見ることがなかったそうなのです。しかし、「となりのトトロ」のビデオを見て涙が出るほど感動し、「この映画知ってる？」と周りの人に声をかけまくったらしいのです。ところがみんな既に見ていて、がっかりとしたそうですが、逆に「他にもこんな作品があるよ」と紹介され、たぐいま宮崎アニメの勉強中とか。一方松田治氏もアシタカにびったりの声でまったく文句の付けようが無し。因みに松田氏はこの2月の14日に子供が生まれてパパになったのです。収録の合間にデジカメで撮った子供の写真をみんなに見せびらかしていました。土方森友さんが巨大な鍋いっぱいのお汁（鮭が入っていたので三平汁か）を作りスタッフに配る。



作業も大詰めの子プリ風景

アフレコの最終スケジュールが若林さんから送られてくる。鈴木プロデューサーも基本的にOKを出す。

97.2.18 (火)

オムニバスからCUT87の差し替えの為、カットング済みのラッシュを回収。やはりタタリ神が問題になってきた。社内じゃ手が遅くて間に合いそうもないので外注に出そうとしたら、「とても期日までにできない」と断られるケースが出てきた。仕方がないので、いくつかスタジオをあたって動画を探してみるも、そもそも動画を海外に頼ってきたため、国内にあまり動画の人がいない状況なのである。いてもうまい人はすぐ原画になってしまっ...。いまさら言ってもしょうがないか。とにかく大ピンチ。

「ツール・ド・信州」のユニフォームのデザインがまだ決まらない。宮崎監督の修正が何度も入っているためである。たしかに野崎さんが最初にデザインしたものより、かなりかっこよく仕上がってきている。しかし色数はどんどん増えているし、本当に作るとなったら一体幾らかかるのか。因みに私は貧乏である。

97.2.19 (水)

瀬川編集にて、CUT87のほか、リテークも含めて約20CUTを差し替える。テレシネした後、オムニバスへ返却。「ブラッカムの爆撃機」を読む。こんな傑作がなぜ日本で話題にならなかったのか不思議である。児童書で出ていたからか？

杉野さんが所属するディズニー日本の動画マンが見学に来る。

97.2.21 (金)

田町のMITスタジオでABC1パートのアフレコが行われる。このスタジオは本来音楽録音用に使われているスタジオだが、若林さんの、今までのアニメーションの音とは違うものにしたい、との意向から選ばれたもの。ちょうど改装が終わったばかりでピカピカのスタジオであった。スケジュールの都合がなかなかつかず、エボシ、ジコ坊、甲六等は別どりとなったが、アシタカ役の松 洋治さん、サン役の石 ゆり子さん、トキ役の島 須美さん等が一堂に。

冒頭のタタリ神を演じたのは「独立愚連隊」シリーズや「戦国野郎」等岡本喜八映画で数々の怪演を残している佐 允さん。もともと別な役柄だったのを本人のたつての希望でタタリ神役に変更したというだけあって、タタリ神の台詞は勿論、唸り声から本来SEで採るべき音まで声で表現してしまう熱演を披露。いやー感動もんです。

このタタリ神の録音には、普通のマイクの他に直接佐 氏の首に張り付けて音を探る特殊マイクが使われていた。

日曜祭日もなく元気に(!)働いている宮崎監督ですが、さすがに所沢から10時に田町へ来るのが相当しんどかったのか、朝から2,000円のコンケルを飲んで「これ2時間半は持つ」とアフレコに取りかかっていた。

兄妹そろっての宮崎アニメファンの石 ゆり子さん。収録が終わっても「見学させてください」とスタジオの隅で見ていた。そこへ鈴木プロデューサーから「ここに座りなよ」と呼ばれ、宮崎監督の後ろの椅子へ。その長椅子に座っていた子プリのスタッフ達のうち、川端、稲城はあわてて立ち上がったが、某制作はこんなチャンスを見逃すはずもなく、スッと横にずれ、まんまと彼女を横に座らせた。しかしいざ横に座られるとあまりの緊張に硬直状態となってしまう身動き一つ取れず。あーなさけない。

ゴンザ役の上 恒彦氏は、宮崎監督の「まさにびたり」の言葉通り、違和感もまったく無く、登場部分がけっこうあるにもかかわらず、予定よりはやくたった1時間で収録を終えてしまった。

遠藤氏、手持ち終了。追加打ち合わせ1,601~1,610まで10CUT。

97.2.22 (土)

野中さんが公園の抽選に浅れ、広いマンションでの新生活が夢と消える。因みに会社に住んでいる片瀬氏は「僕は20回目の応募で入れたんだから」と怒っている。

原画の遠藤さんが、毎日夜中の4時前に自宅マンションからヘルポップ彗星を観察しているらしい。遅刻の原因はそれか。

川端氏がアフレコスタジオの隅りに乗ったタクシーで「よみがえる視力」なる、近眼を手術によって治す眼科のパンフレットを入手。日頃「もう目が見えない」と叫び続けている宮崎監督に渡す。「田中、先に手術しろ!」と人に言いつつも「老後はいろいろなものをはっきり見て暮らしたいじゃないか」と案外本気かも。

16時よりMITでアフレコが行われる。

97.2.23 (日)

今日は月に一度の床掃除の日であったが、スタッフが出動するため清掃会社は無理やり朝7時に来てもらって掃除してもらった。迷惑かけてます。先週もCUTが40CUT以上上がったため、宮崎監督は自分の棚に山積みとなったCUTを見ながら、またしても「なぜ去年のうちにもっと上げなかったんだ」と怒り狂っている。

97.2.24 (月)

大塚さん手持ち終了。速い。原画の手伝いに入る案もあったが、原画上りの直しをすることに。

97.2.11 (火)

宮崎監督は朝から鏡へ直行。居村君がホームページの掲載を目指し、鈴木プロデューサーの似顔絵を描いて見せるが、鈴木プロデューサーから「こんなんじゃないだめだ。描くなら真剣勝負で描け!」と一喝される。

杉野さんが今日から社内で作業開始。打ち合わせ。

CUT1,661~1,669まで9CUT。

原画の田中敦子氏、今日で作業が終了し、テレコムへ帰還。

97.2.12 (水)

Dパート後半に再び登場するタタリヘビの作業が致命的に遅れている。まだ動画に入っていないCUTが23。そのうち原画すら上がっていないCUTが19もあるのだ。量と質の板挟みにどう対処すればいいのか。難しい。鈴木プロデューサーが電子メールにはまっている。というよりもメールが来すぎたので、こままっていると言うべきか。

美術の田中氏とスケジュールの確認をするも、危機的状況を確認し合っただけ。もう一度詳細にデータの洗い直し。

宮崎監督の推薦する「ブラッカムの爆撃機」(ロバート・ウェストール著福武書店)を出版部の柳沢さんが読んでひどく感銘を受けたそうだが、それを聞いた宮崎監督は、紙に爆撃機の絵を描きながら「この鏡座が...」と早速柳沢文史に講義をはじめた。しかしメカにはてんで弱い柳沢さんは聞いてるフリ。

97.2.13 (木)

先週に引き続き再びどろどろデイタラボッチのテストラッシュ。再びOKが出ず。さらに素材を厳選し再度テスト。

野崎氏が宮崎監督のラフをもとに「ツール・ド・信州」のユニフォームをマックでデザイン。その後モニターを見ながら宮崎監督が更に手直し。いよいよ発注か。

月曜日より野中さんの部下が新しく入ってくるのだが、ただでさえ狭い制作部にどう机を入れたらいいのか、米沢さんと野中さんが、紙で作ったミニチュアを使って思案中。

97.2.14 (金)

このままではとても動画が上がりそうもないので、とりあえず一人どの程度のベースで上げて行けば終わるのかを知らせる貼紙を作る。

最近、人生に疲れた者達のたまり場になっていたキャラクター商品部に宮崎監督が「もうちょっと部屋を片づけろ!」と急襲。あわてて漫画の本などを捨てたものの、浅野君が隠していた車を見付けられ「これは仕事上必要なもの...」と必死に言い訳するも通じず。

スパイの米沢さんが毎日夕食を一旦自宅に帰ってとっている。しかも会社まで奥さんが車で迎えに来てくれるらしい。なんてうらやましい...。と書いていたら、「実は今は自転車で帰っています」と米沢さんから訂正あり。安くて狭い駐車場に移ったら、奥さんが車の出し入れができず中止になったとのこと。しかも自宅に帰って食事しているのは、前の会社では給料から食費が天引きされていたのに、今は奥さんからもらっている小遣いが以前と変わっていないのに、自分の小遣いから食費を出さねばならず、単に金が無いためだ、とのこと。

97.2.15 (土)

ラッシュが行われる。

外で手伝わっていているA氏が2CUT原画を上げるも、次の宮崎監督のレイアウトが間に合わず、少しお休み。

今日は朝から制作の田中さんが、具合が悪くて寝ていた。西桐さんの運転で病院に行き、戻ってきたと思ったらそのまま帰ってしまった。病名を聞き忘れてしまったが、風邪と過労のためだろうか。宮崎監督と鈴木プロデューサーは、「絶対食べ過ぎだ」と言っていたが、昨日の夕食に同じ物を食べた私としては、食あたりでないことは断言できる。

月曜日から野中さんの元で働くという望月さんのために、業務部の机を増やさねばならない。机一つ分のスペースをあけるのも容易ではないこの業務部の部屋を見て、鈴木プロデューサーは「この際だから田中をゴミ箱に捨てちゃおう。」と返答に困ることを言っている。一番荷物の多い田中さんと野崎さん(野崎さんは朝から沼津で出張校正)はいない。結局、午前中かかってなんとか机一つ分のスペースをあけるが、その間野崎さんと田中さんの机の下から埃にまみれた靴が多数発見された。何故こんなに靴があるんだろう?数えてみたら合計8足。野崎さんの机の上は動かしたことで雪崩をおこしているし、月曜日かたづけるのが大変そう。

97.2.16 (日)

今日は雨のため宮崎監督も車でお出社。

「エヴァンゲリオン劇場版2部構成に」という新聞記事を見て、監督本人を知っているだけに「苦しんでるだろうな」と宮崎監督も心配気味。

演劇の一人が何食わぬ顔で5時出社。監督が来るのに演劇が大出動かい。外で手伝わっていている原画マンが次々と原画を上げてくるので、レイアウト作業が追いつかず宮崎監督が苦しんでいる。

先週も40CUT近く上がり、監督の棚に山積みとなった原画を見て、宮崎監督は「なんで最初から上げないんだ」とやけ気味に一言。外でムリにお願いしているA氏がCUTを順調に上げているため「さらに追加できないか」と宮崎監督から要望あり。A氏に打診するも「今週末に返事をします」とのこと。

97.2.17 (月)

今日から野中さんの部下として望月さんが出社。

田中さん完全復活か、と思いきやまだまだ本調子じゃないらしい。柳沢さんからドーナツをもらって食べてみるものの、「気持ちわるくなった」と言って柳沢さんに怒られていた。

手持ちが終わりそうにない原画桑名氏に、粟田、遠藤両氏を手伝い入れると宮崎監督から話しあり。

午後1時よりワンダーステーションにて、ABC1パートの森岡さんと彼女に絡む部分のみの松田 治氏のアフレコあり。

ヒイ様役の森さんが第一声を発した途端「この声だ!」と興奮する宮崎監督。

97.3.8 (土)

ラッシュチェックあり。
浦谷さんの取材が入る。今日は作画作業を集中的に追いかける。
山森氏手持ち終了、動画IN。
コミックボックスオ谷氏来社。相変わらず服装がきたない。
高畑監督、今日は4時頃に出社。

97.3.9 (日)

C G 部片瀬さんがエヴァンゲリオンに狂っている。昨日まで放送されていたテレビの再放送ではまったらしい。途中で放送が待ち切れず友人にビデオを借りていたとか。
休日の作画スタッフの出勤時間が遅くなってきている。さすがにずっと休み無しでは辛いかな。

97.3.10 (月)

赤坂プリンスで製作発表。
それに加えて望月さんが忌引の為製作業務部が一人もいない。朝の電話攻勢に対処しなければ、と思つたらしいも電話をかけてくる人達がみんな製作発表に行っている為、静かなもの。

以前男鹿さんからCGの絡むCUT 1.4.65付近のレイアウトを催促されていたが、CG部からも「早くしてくれ、間に合わん」と急かされる。早速宮崎監督に再度催促。

高畑さんが毎日制作、出版部横のステール机に出勤しているが、老眼鏡をかけながら周りの人に「そんなことも分からないんですか」と議論を仕掛けている。

原画チェックに詰まった宮崎監督が、制作部に来ては高畑監督と「宮沢賢治は...」と議論をしたり「バクさんがそこに座っていると、ここがどっかの町役場に見えるな」とからかったりして気晴らしをしている。

97.3.11 (火)

Cパート最後の背景を、昨日から黒田さんが徹夜で描き、昼頃に上げる。すぐさま撮影し、4時にイマジカヘラボ入れ。

朝から、テレビ信州、山形放送、中京テレビ、福岡テレビ、札幌テレビの合同取材が行われる。各テレビ局が順番に社内をぐるぐる。

札幌テレビの道産子紹介のコーナーで、山田君と二人でインタビューに答える。「カメラのご商売に向かっただろぞ」だった。ハズカシー。

Cパートつなぎ込みの為、ラッシュを瀬山編集へ持っていく。
演劇の有富氏が寝違えて、時間が経つにつれ首が回らなくなる。夕方に制作の車で病院送り。

97.3.12 (水)

ラッシュが行われる。
瀬山さん来社。Cパートのカットアップ。上がったラッシュはすぐにオムニバスへ。SE打ち合わせは14日。例のCG CUTのレイアウトを含め、「ものけ姫」全てのレイアウトが上がる。

有富氏の首はますます悪化。人間フォークリフトと呼ばれている。

97.3.13 (木)

D1パートのカットアップを、当初の28日から瀬山さんにむりしてもらって27日に繰り上げる。原画を手伝ってくれていたIさんが手持ち終了。

D1パートのカットアップに向け、各美術に催促。仕上げもきびしい状況のため、色見本となるボード作業とのバランスが難しい。
最近すっかり胃がおかしくなっている私だが、宮崎監督は「食うことに生きがいを感じていたのに、胃がおかしくなったらアイデンティティの崩壊だ」とやけに楽しそう。

鈴木プロデューサーはホワイトボードに「食うすぎて死んだ田中の墓」の絵を描いて喜んでいるし...。これってイジメ？

97.3.15 (土)

三原原画作業終了。九州一周自転車旅行に出発するとか。
手持ちを終了させ、他の原画マンの手伝いに入っていた栗田氏だが、それも終わってしまいそうなので、再度手伝いで2CUT追加をお願い。

徐々に原画マンが手持ちを終了するにしたがい、空き機が出てきた。社内で作業をした方が能率が上がりそうな外注の動画マンをリストアップ。

うわさの「のなかくん」人形をスキャナーで取り込んでみた。なかなか本人の特徴をとらえていると思うが、...。次は「よねちゃん」人形か!? ちなみにデザインは鈴木プロデューサーである。

97.3.18 (火)

テレコム竹内氏、山路氏が来社。今後の事について話し合う。映画後半は重たいCUTが多く「いつもの作品のように上がらなくてすみません」と山路氏は恐縮するが、あれだけ大変なCUTを社内の何倍かのスピードで上げてくれるテレコム動画スタッフに、私は地面に頭をすりつけて感謝したい気分である。

昼食をうりに東小金井南口へ行くとうの駅の改札前を通りかかったら、パンツ一丁の男が正座をして、警官の職務質問を受けていた。天気が良いと怪しい奴が出没する。

午後5時頃「進め！電波少年」のスタッフが「宮崎監督はこの作品を最後に本当に引退するのか」を確かめたいと突如来社する。松本明子嬢が宮崎監督に質問し、監督は「そのつもり」と答えたいらしい。因みにそのついでに「ものけ姫」で声の出演をしたい、とお願いもしていたが、結局どうなったかは不明。しかし、本当にアガ無しでくね。

芳尾氏手持ち終了。そこで宮崎監督が、遅々として進まないK氏の手持ち3CUTのうちから、2CUTを回収し芳尾氏にまわす。

97.3.22 (土)

テレビマンユニオンの取材陣が来社。今日はペーカムにステディカムを付けて取材。

作画スタッフを会議室に集めて現在の状況説明と今後アップに向けての心構え等を話す。とにかく日常生活を犠牲にして上げていくしかないのだ。最後の1カ月間死ぬ気で頑張ろう。やっぱり精神主義になってしまうな。

ある動画スタッフがゴミステーションで、「捨ててください。病気は持っていません。いいかめです」と書いてガラスケースに入れて捨てられているカメ

宮崎監督が、昨日の淵の森での下草狩りの後遺症で下半身がへるへるになっている。

Dパート後半の動画が既に保田さんのもに流れていっているが、背景作業が遅れているため、色指定作業が困難を極めている。無い背景から色を探る神業。

97.2.25 (火)

ディグラポッチとタタリ神のテストラッシュが行われる。
マスク等により、動画チェック上がりより仕上げ入れの枚数が増えつつある。

ここ10日位でチェック上がり分より500枚程度増加している。

先日、公団の抽選に外れた野中氏だが、実は補欠であることが判明、消えかけた希望の炎が再点灯。しかし、聞くところによると、住民票とか絵と証明等必要書類を全て提出しなければ、補欠の対象にすらならないそうだ。もうちょっと簡潔にできないものか。

97.2.27 (木)

野崎さんが契約切れで退社するため、宮崎監督が色紙を描く。
なんと突然サン役の石 ゆり子さんが来社(鈴木プロデューサーは当然知ってみたいけど)。社内を見学してまわったが、当然あちこちの部署でスタッフが騒然となる。動画チェックの高藤君は早速動画用紙にサインをもらっていた。その後鈴木プロデューサーが打ち合わせを兼ねて、石さんと食事

に行ったが、「なぜ私を誘ってくれなかった」と怒り狂うスタッフ多数。

ディグラポッチのテストラッシュを行う。まだOKが出ず、再びテスト。
デジタルCUTの35mmテストラッシュが行われる。煙の色について1CUTリテーク。またまたテストラッシュ。今度はデジタルカメラのテスト。

昨日「ものけ姫」の世界公開に向けて、ディズニーの人が来社し、打ち合わせが行われたが、なんでもアメリカでこの制作日誌を完全に翻訳してホームページに流している人がいると聞いた。それを聞いた米沢さんは「僕のことをスパイの米沢と書いてますけどアメリカに出国できなくなるんじゃ...」と心配している。

97.2.28 (金)

新しく制作業務に入った望月さんが相当な歴史おたくらしい。野崎さんの後釜か。それを聞いた一村教授が早速その知識量を計るため探りを入れていた。予定より早く山森氏の手持ち原画が終了する。終わりそうもない原画マンから数CUT進予定だったが、どれにするかまだ決めていなかった為、アフレコに行っている監督に連絡をとり、1CUT分を山森氏に返し電話で作画打ち合わせを行う。

M I T スタジオで小 薫氏のアフレコ抜き録り。その後田 子氏のリハーサルあり。順調。

野崎氏が今日で退社するため、6時すぎから制作部を中心とした送別会を行う。プレゼントはハンカチと養命酒。以前は「編集の仕事は辞めて北海道に帰る、牧場をやる」と断言していた野崎氏だが、サンライズやパンダの仕事を忙しくて当分は無理らしい。夏休みに遊びに行ける別荘ができると楽しみにしていた近藤喜文氏は、野崎氏に「ジブリのために牧場を」とカラーで描いた色紙を渡していた。

97.3.1 (土)

ラッシュチェックあり。作画追加や特効直し、色パカリ等テーク多数あり。

昨年から毎週土曜日に全体の先生に来てもらって、1日5、6人治療してもらっているが、宮崎監督、鈴木プロデューサーを筆頭に、仕事あまりに忙しい人が多いため、多少元気になっても、数日でもとのだるい身体に戻ってしまうそう。

97.3.3 (月)

仕上げの残り枚数を計算するも、1月末に予想した枚数よりも遥かに増えている。特に、ディグラポッチが出てくるだけで、マスク等で他の動画上がりの枚数の2倍以上になってしまうのだ。

フランスのおたく王デビッド君が持っている秘密のビデオを10分見ると、それはイギリスのアニメーター、リ スがこつこつと何年もかけて作っている新作長編作品のライカリールビデオ。凄い。

97.3.4 (火)

原画の上がないCUTを絵コンテを見ながら、枚数を予測し、総枚数を出してみたところ、予想をかなり超える枚数になってしまった。明日保田さんに報告するのが恐ろしい。

M I T スタジオにて、甲六役の西村 彦氏、エボン役の田 裕子さん等のアフレコがある。西村さんの第一印象は、思っていたより背がずいぶん高く、とても気さくな人だなあというところ。隣に座った演助の伊藤氏と親しく話をしていた。しかし、アフレコに入ると表情は一転、それまで西村さんの声をあまり聞いたことが無かった宮崎監督でしたが、声を聞いた途端「うーん」と唸り「素晴らしい」と一言。「普通の役者がやっていたらただの平凡な人にならなかつた甲六が、独自のキャラクターを持った」とその演技力を絶賛。アフレコ中にも西村さんの迫真の演技と、甲六のコミカルなキャラクターが見事にマッチして思わず笑い声が上がる場面が何度もあった。一方田 さんは2回目ということもあり落ち着いたもの。例えて言うなら動の西村、静の田

と言ったところでしょうか。文句の付けようもなく順調にアフレコは進行したのでした。

杉野さんの原画が予想よりかなり早く上がりそうなので、遠藤さんのCUTを2CUT程分ける。

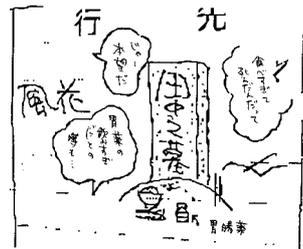
97.3.7 (金)

遅刻常習犯E氏が1時になってもお社しないため、何時も食事と一緒にしているK氏が、E氏の机の上に宮崎監督を真似て「いいかげんにしろ！もう来るな！！」と貼紙をした。出社してきたE氏はそれを見て顔面真っ青。真相を聞かされて床にへたり込んでいた。

Cパートのカットアップを前に黒田さんが最後の背景に苦戦している。一応動機はしてあるが、なんとかが間に合っただけのいいもの。

予想枚数が増えたため、倉庫に予備のセルを取りに行く。多めに買って置いて良かった。

稲村氏手持ち終了。



鈴木プロデューサーの描いた田中さんの墓

が発車。結局その中央線に乗っていた鈴木君を含む5、60人が八王子で放り出される。そのあまりの仕打ちに、怒った乗客で八王子駅は暴動寸前。駅長まで出てきて平謝りしたそうだが、タクシー代を出すとか、ホテル代を出すとか、あとの手当ては何もせず、結局鈴木君は八王子駅周辺で野宿！。ひどいぞ！R 東日本。

28日に予定されている西村雅彦氏と上條恒彦氏の、D2パートの抜き採り用フィルム作成のため、台詞のあるCUT付近を棒つなぎする。

深夜、ついに作監が終了。最後のCUTはその安藤氏が動画を撮くことに。今日スタジオキリーへ仕上げに出したCUTの線撮り素材を作っていた宮崎監督が、夜11時すぎに突然作画リテークを発見。急遽CUTを回収しかぶせの素材を作る。

キャンペーン用、ディダラボッチの着ぐるみの試作品披露がパーにて行われた。但し、この着ぐるみ、170cm以下の細身の人しか着ることができない。そこで、選ばれたのが演助・有富さん。しかし、細身の有富さんでもかなりきつらしく、「マジでやばい」と息も絶え絶え。これ着れる人が本当にいるのか？

97.4.29 (火)

ゴールデンウィークにもかかわらず、当然全員出社。動画アップ&最後のカットティングを控え、みんな必死の作業。

97.5.1 (木)

明日のカットティングに向け、今日の6時イマジカ入れがデッドライン。

4時に素材が全て完成し、撮影に降りるが、いつもなら本当にぎりぎりまで作業を続ける演助の伊藤君は「こんなに順調に作業が終わるはずがない、何か忘れていないに違いない」と社内を考え込みながらうろろう。結局フィルムは無事イマジカへ全て送られる。

D1パートまでの差し替え分をオムニバスへ返却。

ツバメの巣では、雛が順調に育っている。因みにずらしてあるとはいえ車のフロント部分が若干巣の下に来ているマーチは、ツバメの糞だらけ。

97.5.2 (金)

D2パートのカットティング。全編の総尺128分3秒5コマ。

動画も残り4CUTとなり、ほとんどの動画スタッフは明日から制作休暇。

美術スタッフが3階で、自作タイ風カレーや焼き鳥で簡単な打ち上げ。

97.5.4 (日)

今日も再び360フレームのマシンがけ。8時終了を目指してかけ始めるが、続けてかけているとすぐマシンが加熱して、カーボンが浮いたり、極端に写りが悪くなる。昨日、「明日も写らなかったら電話して」と言って帰って行った村尾さんに再びTEL。

夜10時すぎからは、演助の有富君も参加し、ようやくかけ終わったのが深夜1時半。

動画チェックが全て終了。

宮崎監督が早速机の周りをかたづけ始める。膨大に溜まったCDを借りたものや自分のものに分け、自分のものは「御自由に持ちください」の貼紙を付けて大放出。ところがよく見るとその中に私の貸したCDが何枚も…。あわてて既に持って行った人からも自分のCDを回収。

97.5.7 (水)

色指定が全て終了。夜スタジオキリーに最後のCUTを入れる。

0号試写までの最終スケジュールが完成。

作監作業を終え、待機中の高坂氏は、「ツール・ド・信州」に向け毎日50キロ以上のトレーニングをしている。一方、宮崎監督に「いつもリタイアの言い訳ばかり探しているのだから」とからかわれている。某制作デスクは、先日自転車で転倒し、肋骨を痛めてしまったため、宮崎監督に「リタイアの事ばかり考えているから転倒するのだ」と再び格好の攻撃目標となっている。

97.5.9 (金)

特効入れのCUTがががが上がってくる。残りCUTの8割方に特効が有るため、特効はこれからが修羅場。

次号のアニメージュがジブリに送られてくるが、「野中くん」の漫画が最近イジメに入っていると思うのは私だけだろうか？

合間をぬって使用済みの原画や線撮り素材の整理を始めるが、量が膨大である。だてに2年もやってた訳ではない。

97.5.13 (火)

10日分ほど溜まってしまった制作実績表を一気につける。

外注に出した仕上げの残り枚数が、まだ5,000枚ほどある。ただし、1CUTあたりの平均枚数が130枚を超えているため、CUT数にするとあと40CUTも無い。もうすぐだ。

97.5.14 (水)

今日のギャドでアフレコが終了。

ギャ録りということでマスコミはそれほど来ていなかったが、「もののけ姫」とは関係の無い某広告代理店H報堂の藤巻氏（「まりちゃんず」のボーカルでもある）が何故かアフレコに加わる。鈴木プロデューサーは「これで同社取り扱いはCFで「もののけ姫」を宣伝してもらおう」と画策している。ついでに鈴木プロデューサーも「耳をすませば」の南老人に続き、アフレコに参加。役は秘密。本人曰く「もっとちゃんとした役じゃないとだめだ」と言いながらもまんざらでもない様子。

明日の差し替えに向け、イマジカに持ち込み、回収。

スタジオMと片山さんが手持ち終了。

コミックボックスの三好氏以下3人が来社し、「もののけ姫」特集号の取材について打ち合わせ。公開前の7月10日には出したいという…。私の予想は1月遅れ。

97.5.15 (木)

差し替え前のラッシュチェックが行われるが、一気に40CUT以上のチェックをしようとしたため宮崎監督に「こんなにいっぱいにはチェックしづらいだろう」と怒られる。

ロール5-9まで差し替え。

明後日放送予定の「ウルトラ ンティ」の演出が実相寺昭雄と聞いて、興奮して夜も眠れない者が社内に数人いる。

を発見。かわいそうなので拾ってきて引き取り手を探したところ、宮崎監督が名乗りを上げる。早速「亀次郎」と命名。

97.3.23 (日)

宮崎監督が今日も徒歩で通勤しようとしたが、時間がかかりすぎたため途中でタクシーを拾ったという。最初は滝山団地付近でタクシーに乗ろうと考えたが、なかなかつかまらなかつたため、結局花小金井の付近まで歩いてきてしまったらしい。

宮崎監督が昨日拾った亀次郎を持ち帰り、早速自宅の池に放したそうだ。

97.4.3 (木)

CD1パートのアフレコが始まっているが、線撮りが多く、作業が思うように進まないため、とにかく差し替えられるものは差し替えてしまうことに。夜D1パートを差し替えてオムニバスに渡したと思ったら大塚君のミスでラッシュチェック前のCUTをつないでしまったことが判明。夜の10時半に瀬山さんをつまえて、オムニバスから回収したラッシュから問題のCUTを抜いてもらう。今日は大塚君の厄日。

MITスタジオにて森繁久彌氏のアフレコ。明日予備日を取ってあったが、1日で終了。

所沢の橋爪さんの家に特効上がり回収に向かうが、夜の大雨で完全に道に迷う。

97.4.7 (月)

相変わらず作監が足りないのに、社内は分け分け完全に自転車操業状態。追い込みに向けて特効のメンバーを集めたら、とたんに特効CUTが無くなってしまった。

仕上げ上がりはそれなりに上がっているのに、なぜか特効の無いCUTばかり上がってくる。単なる偶然だろうけど、そんなもんか。仕上げのスタジオに入れを持って行かなくちゃと思うつつ動画チェックを見ると、1CUT365枚のCUTがもうすぐ上がりそう。ラッキーと思ったらデジタルペイントCUT。トホホ…。

今日も鈴木プロデューサーらは夜中の2時すぎまでジブリで宣伝会議。宮崎監督も「まだやっているの？」とあきれた顔。しかし監督も2時まで仕事をしている。2人とも若者よりはるかに元気。

ところで、12月に交通事故に遭い、ずっと入院していた原画Y氏が3月28日に退院した。これからは自宅にてリハビリを続けていくことに。

先日、退院してすぐ、Y氏はスタジオを訪れたが、松葉杖ながら元気そうなのでみんな安心した。

97.4.9 (水)

アヌシーアニメーションフェスティバルから案内が来るが、今年は仕事が終わらないで行けそうにない。こんなにスケジュールを遅らせたのは誰だ、と考えると、制作である自分の責任。

久しぶりに演助の有富語録炸裂。宮崎監督がへるへるになっている安藤作画監督を見て、冗談で「有君、総務部行ってヒロポンもらってきて」と言ったら「ハイ！わかりました」と総務部に「ヒロポンください」と走って行ったとか。宮崎監督曰く「無知は力だ」。

97.4.18 (金)

最近すっかり鈴木プロデューサーのペースに巻き込まれている野中氏の部下望月氏は、西川口に住んでいるためよく帰りの電車に乗り遅れている。その対策として会社の近くで引越すことを計画しているらしいのだが、その分労働時間が激増するのは、米沢氏で実証済み。

作監のペースがさらにダウン。ここ6日間で16CUT！しか上がっていない。動画の作業量も、一時一万枚を超えていたのが現在はその半分。CUTを分けて一人一人の手持ちを少なくし対処しているが、もうこれ以上は無理。安藤先生がんばってくれ～。

97.4.19 (土)

夜10時に宮崎監督からサブウェイのサンドイッチの差し入れアリ。

望月氏引越しを決意。明日必ず部屋を決めてくる宣言。

「もののけ姫」の制作が終わったら、四国八十八箇所を巡拝してまわりたいと言う宮崎監督（ホントか？）。仕事の疲れがたまるとたびたび呟いているらしい。

ツール・ド・信州にお過路に今年の夏は盛りだくさんになりそうだ。

97.4.20 (日)

社内の動画が手空きになりつつあるため、線撮り素材作りを手伝ってもらおう。ところで「もののけ姫」の線撮りは、演助伊藤氏のこだわりで非常に見やすいものになっている。のはいいのだが、その分素材作りが大変なのだ。一度宮崎監督に「今回の線撮りは見やすい」と言われりゃ、もう線撮りと言えど質は落とせない。

今日宮崎監督はお休み。

97.4.24 (木)

デジタルペイント用にシリコングラフィックスのコンピューターが社内に搬入。動画作業が終了した希望者もオペレーターとして投入予定。

安藤作監、今週中には必ず作監を終らせる宣言。

鈴木まり子、松尾コンビで作業が続けられている大判デダラボッチが、このままでは終わらないことが発覚。急遽救援部隊投入を決定するも、ジブリには大判トレス台が2台しかないため、明日朝一に、1借りる2買う3作る。の3つの作戦を開始予定。

97.4.25 (金)

宮崎監督の原画チェックが完全に終了。やる事が突然無くなった為、線撮り素材の色塗り始める。けっこう楽しそう。また合間をぬって取材がぞくぞくと入り始める。

倉庫でぼろぼろの大判トレス台を発見。ただし上に乗せる曇りガラスが無かったため、近くの硝子屋で購入。またもう一台をテレコムから借りることに。パーに急場のデジタルペイントルームが作られる。

97.4.26 (土)

昨夜11時頃、町田に住む制作バイトの鈴木君が、いつものように八王子経由の横浜線で帰ろうとしたところ、中央線が車両故障でストップ。なんとか八王子には着いたものの、乗り換えの階段の途中で無残にも横浜線の最終電車

シュを瀬山編集に持ち込む。

夜、瀬山さんからTEL、CUT1,323を次のCUTとのアクションのタイミング上9コマほど切りたいという。音響作業の関係上、尺を変えることが可能かどうか若林さんに問い合わせるも、既に帰宅した後。明日朝一で宮崎監督も含めて相談。

97.6.1(日)

宮崎監督、テレセンに向かう前に撮影部でデジタル合成のチェック。例のリテークの為、撮影は今日も出勤。

97.6.4(水)

再び朝10時からラッシュチェック。例の大判とデジタルのリテークCUTは明日チェック予定。これで全て終了の予定。

仕上では外注スタジオから回収した膨大な絵の具整理が始まる。制作も若手がお手伝い。ついでに取材に来ていたコミックボックスの若手もお手伝い。平行して倉庫の整理も始める。

テレセンへもっている鈴木プロデューサーから「髭剃りを持ってきて」等怪しげな連絡がジブリに来はじめた。よみがえる「耳をすませば」の悪夢。

97.6.5(木)

10時からラッシュチェック。全てOK。モニターではOKが出ているデジタルのリテークCUTは明日朝にチェック。

明日からのファイナルミックスを控え、冒頭のトロマーク、CUT1、2、タイトルのオプチャカルが上がってくる。伊藤氏が、宮崎監督が詰めているテレセンにラッシュを持って行き、チェックしてもらおうが、なんとその全てがリテークになってしまう。理由は様々。その対処で奥井、伊藤両氏を中心に大騒ぎ。再度瀬山さんにオプチャカル出しをしてもらうことになるが、ロール1の原画が組めないで、後回しにすることに。

97.6.16(月)

昨日宮崎監督が足を捻挫。

16時半よりイマジカにて初号試写。石田ゆり子さんと筑紫哲也さんも来る。徳間社長の両となり宮崎監督と高畑監督が座り上映開始。試写はさしたる問題もなく終了。0号の時多少問題になった音の大きさについては、3デシベルレベルを上げることで解決していた。

97.6.17(火)

「もののけ姫」の完成打ち上げパーティが、吉祥寺で行われる。ゲストは松田洋治さんと石田ゆり子さんのアシタカ・サンコンビ。映画に携わった方々300人以上集まる盛況ぶり。用意したお土産も足りなくなるほど。司会をつとめていた野中さんは、途中司会進行を鈴木プロデューサーに奪われてしまい「私の不徳のいたすところです」と少し残念そうだった。はりきって司会に臨んでいたから無理もないか。徳間書店、室井さんが一本締め音頭をとり、打ち上げパーティも無事終了。皆さん本当にお疲れさまでした。

97.6.18(水)

打ち上げの余韻を楽しむ間もなく「スーパーマン」の作業を続行。

宮崎監督も取材で大忙し。

今日から休暇のはずの制作の田中さんも何故か朝から出社。某誌との打ち合せを終え、無事故郷北海道へと旅立るのでしょくか？



「制作日誌」のメイン作者
制作部の田中さん。
宮崎さんにしかられる(?)図

97.5.16(金)

仕上げを手伝ってもらっていた東映動画が作業終了。美術の黒田氏が体調不良でお休み。残る背景は大丈夫なのか？H報堂藤巻氏、今人気のキティちゃんの人形焼きを片手に来社。15日のアフレコの様子について聞いてみた。

———どんな役だったんですか。

藤巻氏 わからないけど、武士とか農民。

———出来はどうでした。

藤巻氏 ちょっと不満。やり直したかったが、他にも待っている人がいるのでできなかった。まあ、点数にして60点ぐらいかな。

———鈴木さんのアフレコはどうでした。

藤巻氏 鈴木さんのおかげで「もののけ姫」はダメになった。だって「たたりじゃー」だよ。

鈴木さんのセリフらしい。

鈴木氏 何言ってるの。僕の役は侍の中でも立派な侍で、監督に是非やってくれと言われてやったんだよ。

藤巻氏 立派って言ったって、「たたりじゃー」なんていう侍いる？下っぱだよ。

鈴木さんの役柄は、ほかの人たちが声を当ててみたが、なかなか合わず、それで最後に鈴木さんに、ということになったらしい。

鈴木氏 最初、「ウォーとかウアーとか言ってください」って言われたんだけど、セリフがなきゃ嫌だと言ったら、じゃ「たたりだ」にしようということになったんだ。僕役作りもしたんだよ。ただ、「たたりだ」じゃつまらないから、初めどもって「た、たたりだ」にしたんだ。そしたら、若林さんに「どもらないで普通にやってください」と言われちゃってさあ。タエ子ちゃんの気持ちがよくわかったよ。役者と監督の対立というかさ。

詳しくは「おもひでぼろぼろ」をごらんください。

———藤巻さんはどんなセリフだったんですか。

藤巻氏 サンが跳ぶシーンで「跳んだ」と5人ぐらい言うところ、侍の役で「くそう、浅野のなんとか……」忘れたけど、そういうセリフだった。

鈴木氏 セリフ忘れるなんて大した役じゃなかったから。

藤巻氏 鈴木さんのセリフは、完成したら聞こえないよ。でも、僕のセリフは消せないシーンだからね。

———クレジットに名前が入るんですか。

鈴木氏 (小声で) 入らない、入らない。

藤巻氏 友情出演ということにして下さい。

一部編集しています。

「鈴木さんのアフレコはどうか」の質問から、口を挟む間もなく話がエキサイトしていた。一部編集してあるが、この場の雰囲気は十分すぎるほど伝わると思う。

今年の夏「もののけ姫」を観る人は、「跳んだ」「くそう浅野の～」「たたりじゃー」というセリフには注意しよう。

97.5.17(土)

宮崎監督はアバコスタジオでオーケストラ録りの立ち会い。

デジタルペイントのDRが作業終了。

97.5.20(火)

例の360フレームの、完成セルから起こすリスマスクを150枚マキプロに発注。

今日から作画が、制作休暇を終え出社。テレコム作品「スーパーマン」を手伝うための準備に入る。作監は芳尾氏。明日打ち合わせの予定。

宮崎監督が次作研究中の高畑監督に机を譲ると宣言。さっそく机に「本日よりここはバクさんの席になりました」と貼紙を出す。

97.5.22(木)

高畑監督からジョン・ハブリーの作品が見たいとの命を受け、アヌシーへ行く直前の片山雅博氏からビデオを借りる。

今日から宮崎監督は、音楽のトラックダウンにワンダーシティに行く予定であったが、向こうの準備が整わなかった為、明日から延期。

97.5.23(金)

今日も音楽トラックダウンが延期となる。宮崎監督はやる事が無くなったため近所を散歩。

作業が終了したIMスタジオから絵の具を回収。

制作・田中と制作業務望月氏がお金を出し合い、おやきと御手洗(「みたらし」であって「おてあらい」ではない)団子を山盛りで買ってくる。御手洗団子の定義について若干議論アリ。

97.5.24(土)

スタジオキリーで作業中の、仕上げ最後の3CUTが、予定より3日早く、27日(火)にアップ予定。

引越したばかりの望月氏だが、隣のビルの飛び降り騒ぎで朝早くたたき起こされる。警察と消防隊は、小金井街道を通行止めにして道路にエアバックまで敷いて説得していたとか。

制作の居村君が自転車通勤途中、車と接触、顎と膝を強打し、救急車で病院に運ばれる。骨には異常が無かったものの顎を数針縫う怪我。

ラッシュチェックが行われる。

5時よりワンダーシティにて宮崎監督立ち会いのもと音楽トラックダウン。

97.5.26(月)

宮崎監督は今日もテレセン。

仕上げの残りがあと1CUTとなる。

動画は今週もエヴァンゲリオンのお手伝い。

97.5.28(水)

ラッシュチェックあり。いくつか素材を作り直したり、背景に手を入れなければならぬリテークが出る。

テレセンで全編のラフミックス試写が行われる。その後差し替える為、ラッ

スクープ! エリート一流銀行マンの眼にうつったスタジオジブリ潜入報告!

Takahiro Yonezawa
米沢敬博

「スパイ」と呼ばれて

某大手銀行に勤務する彼は、ある日突然上司に呼ばれ、「ジブリに行ってくれ」と。宮崎監督から「スパイ」と呼ばれる彼が見、聞き、垣間見たアニメ業界の人間の、愛と憎しみの魂の慟哭記!

ジブリには、さまざまな経歴を持った人たちが集まっています。私は昨年10月から、研修ということで某銀行から出向し、ジブリで働いています。銀行員がジブリでどんな仕事をしているのか、目的は何なのか、不思議に思う人は多いと思います。銀行はこれまで、映画とかゲームソフトなど、リスクが大きく、かつ担保価値が測れないものにはなかなか融資できないでいました。一方、新聞をみれば、ソフト産業がこれから隆盛に向かいつつあります。これからの銀行を考えた時、これからの日本を支える基幹産業に育ちつつある、いわゆるコンテンツ、ソフト産業に何らかのサービスを提供する必要があり、その方策を考えるためには、まずその業種の実態をさぐるのが手取り早い方法であると考えたのです。そのために、以前から取引があり業界でのトップ企業の1つであるスタジオジブリでお世話になることになったのです……

とまあ、こゝまでは公式発言である。しかし決まった時には正直「えらいことになった」というのが本音である。何せ、当時の私は、ジブリの作品をまともに見たこと一つもない、世間でも稀な「ジブリ音痴」だったのである。知っているのは宮崎監督の名前くらい。同僚から「お前、ジブリ知らないのか」と散々に言われ、しかし羨望の眼差しに見送られ、ジブリでの研修が始まったのである。喜んだのは妻である。彼女は「これで家に早く帰ってくるようになるし、休日もまともに休める」と思ったらしい。これがとんでもない勘違いであることは、後日思い知らされることとなる。

その数日後、初めてジブリを訪れた。たゞしいアニメーションスタジオというものは、汚くて狭くて暗くて……というのが、私の想像であったが、杞憂であった。ジブリは予想外に清潔で明るく、広そうに見えるオフィスであった(実際は手狭なだけに、のだが、パブリックスペースが大きいので、広く感じるのだ)。すぐに専用のパソコンを用意してもらい、これはなかなか居心地が良さそうである。

初めて宮崎監督に会った。あの宮崎駿である。鈴木プロデューサーより「今度来た米沢君です」と紹介してもらったが、監督の第一声は「ああ、あなたが銀行のスパイですか。私は咄嗟に満面の笑顔を作り「はい、そうです」と、元氣よく返事をしたが、これが結構ウケたらしい。鈴木プロデューサーによれば、宮崎さんは「あの笑顔らしい、銀行員に見えない」と至極満ち満ちたこと、私としては複雑な気分。これ以降、喜んだ鈴木プロデューサーの陰謀により、「米沢＝スパイ」説はジブリ社内はおろか、制作・宣伝スタッフにあまねく伝わることとなった。さらに、鈴木プロデューサーに似顔絵まで描かれてしまった。これまで数々の関係者の特徴を巧みに捉えてデフォルメしてきた鈴木さんの観察眼は並ではない。がやはり、自分の似顔絵を、ば突きつがれると……似ているとは思いたくない。

そうしているうちに、仕事が本格化してきた。私が銀行から派遣されたのは、徳間グループとディズニーとの提携が大きなきっかけで、当初は法務・著作権関係を担当することになっていた。これまで、純粋に自社作品のみを供給し続けていたディズニーが、外部の作品を、しかも一切手を加えずに受け入れるというのである。それはかなりおもしろい話だが、世の中そううまくはできていない。何せジブリ



絵/スタジオジブリカンパニー プレジデント 鈴木敏夫

にとって、本格的な海外進出は初めてである。世界のディズニー相手に一体どうなることだろうと思いつつ、交渉は始まったが、実はディズニーにとっても、外部のプロダクションと契約するのは「初めて」だったのである。ディズニー主導どころか、最初から双方、とまどいの連続だった。詳細をここで明らかにすることは紙幅の関係もあり省略させていたのだが、用語の問題に始まり、法体系の違い(彼らには売れない「権利」「著作権者人格権」と権利を売らない「JASRAC」の存在がどうしても理解できなかったらしい)果ては日米の文化の違いまで思い知らされることとなる。そして彼らも思い知らずに違いは、「ジブリ侮るべからず」と。世間では「ジパニメーション」なる言葉がもてはやされている。しかし、海外で日本のアニメ作品がヒットしても、それにより作り手がどれだけの恩恵を受けているのか、実態はお寒い限りではないだろうか。それは作品の質によるものではなく、オールラインを雀の涙ほどの金額で売り払い、再編集も野放しという権利関係に対する認識の甘さがあると思われる。無論全ての作品がそのような状況に置かれているとは到底思わないが、今回のジブリとディズニーの契約が業界のスタンダードとなれば、そのギャップも埋められるのではないかと、秘かに期待している。

鈴木プロデューサーに就いて、何にでも首を突っ込んでいこうといううちに、やがて「もののけ姫」の宣伝活動の方に重心が移り始めた。映画の宣伝という、何か特殊なことをするのである。かと思われるかも知れないが、モノをどう売るかに例外はない。要するに、

- 1 そのモノの特徴は何か、
- 2 それを誰が欲しているか、
- 3 その人達に、かに効率的に知らせるのか、

を押さえれば、どれほどモノは売れるのかはある程度予測できる。そしてプラスアルファを狙うためには、その宣伝の規模と、何より作品の魅力が問題になってくるのである。手前味噌ながら、ジブリが興行的に成功を収め続けている理由は、このあたりにおりそうである。映画の方が一段落したら、本格的に取り組んでみたい課題の1つである。

ジブリに来て、変わったことがいくつかある。

まず、朝。今までは7時に起き、慌てて朝食、8時頃には会社に到着していたのが、ジブリでの出勤時間は何と11時。ざっと3時間も余裕ができた。最初は英語でも勉強しようか、いやパソコンだ、スポーツだとかあれこれ考えていたが、結局、寝ているか、朝のワイドショーを見るかというのが現状となってしまった。人間、易きに流れてしまうものである。余談であるが、パートで働いている妻は、私より早く出かけてしまったため、朝は私「いってらっしゃい」と妻を送り出している。おかげでワイドショーネタについては、今や私の方が詳しくなった。

次に住まい。毎夜やってくる日本テレビの奥田さんとの打ち合わせなどで、必然的に帰りの時間は遅くなった。ところが11時過ぎには終電がなくなってきてしまう。これでは仕事にならない、ということで銀行に相談。偶然近くに空いていた社宅に無理矢理入れてもらった。これにより勤務時間は午前2時、3時と際限がなくなったが、そんなに苦にならないのは、この仕事が結構気に入っているせいだろう。

最後に、ジブリに来て、感じたことなどいくつか。まず、驚いたこと。ジブリでは、従業員(あえてこういってしまう)が朝決まった時間に出てきて、タイムレコーダーを押し、夜、多少の(時期によってはかなりの)残業をして黙々と仕事をこなしている、ということである。他の制作プロダクションがどのような勤務形態をとっているかは知らないが、少なくともジブリでのスタッフの働きぶりには、個性の強い、芸術家の集まりという、私の想像とは全然異なるものだった。まるで一般企業の工場なのである。

しかし、一つの製品を作り上げるときに、従業員がいくら優秀な技術を持っていてもバラバラに働いていてはいい製品は出来上がらない。ある一定の規律は必要不可欠である。そして、数多くの異なる才能を、効率よく、緻密に組み立てていくことによって、初めて優秀な製品を生み出せるのである。そういう点、ジブリは、日本の他の優良企業と同様、ごく普通のことを、ごく当たり前に行っているに過ぎない。一方で、優秀な才能を持った個性あふれる人たちが集まったときにそればかりに難しきことであるのかについても思い至るのである。

尚、ジブリでは、徹夜は禁止されている。理由は「紅の豚」で、ポリコが徹夜したフィヨに向かっての台詞そのままである。「睡眠不足は、仕事の敵だ。しかも美容にも良くない。」

また、ジブリでは、銀行員生活では味わうことができなかった「モノづくり」を実感することができ、本当に貴重な経験を積むことができた。もともと私が銀行へ就職したのは、文系出身ではモノづくりになかなか関与できない、それならば、いっそ裏方に回った方が、自分の能力が生かせるのではないかと理由であった。しかしわずか半年余りであるが、様々な人たちと一緒に仕事をする機会に恵まれ、自分の視野が一気に広がると共に、一つの作品が徐々に出来上がっていく様を目の当たりにし、そこに自分が関与できたことに、本当に喜びを感じる。銀行では外の人と仕事を一緒にする機会はずっと減り、ややもすると世間の常識と乖離しているように捉えられがちであるが、こういう経験を積んで人の動きに目配りができるようになれば、ジブリで得られたものは、自分の生涯の財産になっていくだろうと思う次第である。

